

和仏法律学校講義録

加藤, 正治 / 高野, 岩三郎 / 杉本, 貞治郎 / 金井, 延 / 有賀, 長文 / 鈴木, 宗言

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

2-8

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

45

(発行年 / Year)

1899-05-25

和佛法律學

講義筆記

每月貳回

第八號

目次

經	破	財	經
濟	產	政	濟
學	法	學	學
(自一五七頁)	(自一七二頁)	(自一〇八頁)	(自三五〇頁)
法學士高野岩三郎	法學士鈴木宗言	法學士有賀長文	法學博士金井延
商	海	商	商
法	商	法	法
總	法	則	則
(自四一頁)	(自七六頁)	(自四八頁)	(自四一頁)
法學士杉本貞治郎	法學士加藤正治	法學士高野岩三郎	法學士高野岩三郎



圖書閱覽室ノ設置

今回本校々友會ノ寄附ヲ以テ本校ニ圖書閱覽室ヲ設ケ廣ク法律政治經濟ニ關スル内外ノ書籍ヲ蒐メ校友及ヒ生徒ノ隨意閱覽ヲ許シ斯學ノ研究ニ一大便利ヲ與ヘントス今ヤ當該委員ニ於テ圖書ノ蒐集中ニ在ルヲ以テ不日完全ナル一圖書館ヲ見ルニ至ルヘシ

○懸賞論文試驗 本月二十八日午前九時ヨリ各年級ノ懸賞論文試驗ヲ行ヒ各年級最優等者ニ對シ各金拾圓ヲ賞與ス但シ試驗ノ狀況ニ因リ數人ニ之ヲ分與スルコトアルヘシ

第二、交換價直

別のノモノナリ故ニ前者ヲ一般の利用價直ト稱シ後者ヲ特別の利用價直ト曰フモ可ナリ

交換價直トハ英佛經濟學者ノ多數カ價直其者ト混同スル所ノモノニシテ一種ノ財貨カ他ノ財貨ト交換シ得ルニ適當ナル價直ナリ英佛ノ學者ハ多ク交換價直ノミヲ以テ直チニ價直其者ト爲シ單純ナル利用價直ハ交換シ得ヘカラサル財貨ニモ附着スルヲ以テ之ヲ價直トシテ認メス然レトモ交換價直ハ畢竟間接ノ利用價直ナルヲ以テ唯其ノ利用ヲ一時猶豫セラル、モノト看做サ、ルヘカラス

子ハ冒頭ニ於テ價直ノ意義ハ之ヲ最モ廣ク解スハキモノナルコトヲ言ヘリ然ルニ英佛ノ諸學者ハ多ク交換價直ノミヲ以テ直ニ價直其者ナリト解セリ交換價直ハ畢竟間接ノ利用價直ナリ故ニ交換價直ハ直接ニ人ノ欲望ヲ満足コトヲ得スト雖モ間接ニ人ニ利用ヲ與フルコトヲ得ル性質ナリ例ヘハ金銀ハ直接ニ衣食住ノ欲望ヲ満足スル利用價直ヲ有スルコトナシト

090
1899
2-1-8

圖書閱覽室ノ設置

今回本校々友會ノ審附ヲ以テ本校ニ圖書閱覽室ヲ設ケ其法ヲ政治經濟ニ關スル内外ノ書籍ヲ蒐メ校友及ヒ生徒ノ隨意閱覽ヲ許シ研究ニ一大便利ヲ與ヘントス今ヤ當該委員ニ於テ圖書イ蒐集中ニ在ルヲ以テ不日完全ナル一圖書館ヲ見ルニ至ルヘシ

○學實論文試驗 本月二十八日午前九時ヨリ各年級ノ學實論文試驗ヲ行ヒ各年級最優等者ニ對シ各金拾圓ヲ賞與ス但シ試驗ノ狀況ニ因リ數人ニ之ヲ分與スルコトアルヘシ

別のノモノナリ故ニ前者ヲ一般の利用價直ト稱シ後者ヲ特別の利用價直ト曰フモ可ナリ

第二、交換價直

交換價直トハ英佛經濟學者ノ多數カ價直其者ト混同スル所ノモノニシテ一種ノ財貨カ他ノ財貨ト交換シ得ルニ適當ナル價直ナリ英佛ノ學者ハ多ク交換價直ノミヲ以テ直チニ價直其者ト爲シ單純ナル利用價直ハ交換シ得ヘカラサル財貨ニモ附着スルヲ以テ之ヲ價直トシテ認メス然レトモ交換價直ハ畢竟間接ノ利用價直ナルヲ以テ唯其ノ利用ヲ一時猶豫セラル、モノト看做サ、ルヘカラス

註 予ハ冒頭ニ於テ價直ノ意義ハ之ヲ最モ廣ク解スハキモノナルコトヲ言ヘリ然ルニ英佛ノ諸學者ハ多ク交換價直ノミヲ以テ直ニ價直其者ナリト解セリ交換價直ハ畢竟間接ノ利用價直ナリ故ニ交換價直ハ直接ニ人ノ欲望ヲ満足コトヲ得スト雖モ間接ニ人ニ利用ヲ與フルコトヲ得ル性質ナリ例ヘハ金錢ハ直接ニ衣食住ノ欲望ヲ満足スル利用價直ヲ有スルコトナシト

雖モ素ト交換シ得ヘキ性質ヲ有スルヲ以テ間接ニハ利用價直ヲ有スルナリ尤モ場合ニ依リテハ金錢モ亦直接ニ利用價直ナキニアラスト雖モ眞ノ意義ハ之カ爲ニ變スルコトナシ茲ニ注意スヘキハ利用價直ト曰ヒ交換價直ト曰フモ其實同一ノ價直ヲ兩面ヨリ觀察シタルモノニシテ決シテ別個ノ價直ノ獨立ニ存在スルニアラサルコト即チ是ナリ
今此理ヲ知ラント欲セハ交換價直成立ノ條件ヲ列舉スレハ自ラ明ナラン
交換價直ノ成立條件ニ三アリ曰ク

- (甲) 利用價直ヲ有スルコト
- (乙) 交換價直ヲ有スル財貨ヲ獲得スルニハ必ス勞力ヲ提供スルカ若クハ他ニ報酬ヲ與フルヲ要スルコト
- (丙) 交換價直ヲ有スル財貨ヲ全ク所有シ賣買讓與スルハ法令ノ認許スル所タルヲ要スルコト

是ナリ

註(甲)ノ條件ニ付キ一言センニ元來利用價直アリテ而シテ後始メテ交換價直

ノ生スルモノナレハ交換價直ノミカ單獨ニ存在スヘキモノニアラス例ヘハ金錢ハ之ヲ潰シテ地金ト爲シテモ一種ノ利用價直ヲ有ス故ニ金錢ハ金錢トシテハ其ノ表面ニ記載シアル額ト同一ノ交換價直ヲ有スヘシト雖モ其利用價直ハ往々額面ニ顯ハル、モノト異ナルカ如シ要スルニ交換價直ヲ有スルモノハ必ス利用價直ヲ有スルモノナリ(乙)ノ條件ニ付キ一例ヲ舉ケテ之ヲ示セハ空氣ノ如キハ利用價直アレトモ交換價直ヲ有セス何トナレハ空氣ハ資本若クハ勞力ヲ費サスシテ之ヲ獲得シ得ヘケレハナリ(丙)交換價直ヲ有スル財貨ヲ所有シ若クハ賣買讓與スルハ法令ノ禁止スル所ナラサルヲ要ス故ニ奴隸ハ方今文明諸國ノ禁止スル所ナルヲ以テ之ヲ交換價直アルモノト謂フヘカラス又竊盜強盜等ノ行爲ニ依リテ他人ノ所有物ヲ奪取スルコトヲ認許シタル法令ハ歴史アリテ以來未ク曾テ見聞セザル所ナリ是等法令ノ禁止シタルモノハ皆交換價直ヲ有スルモノニアラス
右述フル所ニ由テ之ヲ觀レハ交換價直ヲ有スルモノハ通常經濟上ノ財貨タルコト誠ニ明白ナリ然レトモ自由財貨モ亦右ノ三要件ヲ具備スルニ至ラハ交換

價直ヲ有シ得ナルニアラス

三八

註 三要件トハ前ニ述ヘタル(一)利用價直(二)勢力若クハ報酬ヲ要スルコト
(三)法令ノ禁止セサルコト、ノ交換價直成立ノ條件ヲ指稱スルモノナリ
通ノ場合ニ於テハ交換價直ヲ有スルモノハ經濟上ノ財貨ニ限ル然レトモ
經濟上ノ財貨中ニモ亦交換價直ヲ有セサルモノアリ例ヘハ國家ノ如キ即
チ是ナリ國家ハ素ト一種ノ有利關係ナレトモ交換價直ヲ有セス否ナ交換
價直ヲ有スルモノヨリ以上ニ位スルコト勿論ナリ又夫ノ風景ノ如キモ利
用價格アレトモ交換價直ナキヲ通例トス之ニ反シテ自由財貨ニシテ交換
價直ヲ有スルコトアリ即チ水ハ元來自由財貨ナルモ或場所ニ於テハ特ニ
井戸ヲ掘ルニ非サレハ水ヲ得ルコト能ハサル場合アリ此場合ノ水ハ勢力
并ニ資本ニ依リテ得ラル、モノニシテ交換價直ヲ有セリト謂ハサルヘカ
ラス又原野ニ存在スル天然生ノ果實ト雖モ或人ヲ除クノ外他人ノ容易ニ獲
得能ハサル場合ニハ元來自由財貨ナレトモ交換價直ヲ有スルニ至ルヘシ
シ其他土地ノ如キハ古代ニ在リテハ自由財貨タリシト雖モ現今ニ至リテ

ハ之ヲ要スル人多クシテ其供給ニ限アルヲ以テ勢力若クハ報酬ヲ以テス
ルニ非サレハ之ヲ取得スルコト能ハス故ニ土地ハ方今交換價直ヲ有スル
モノタルコト何人モ疑ハサル所ナリ蓋シ土地ハ今後ト雖モ永久ニ交換價
直ヲ失フコトナカルヘキ要スルニ以上ノ條件ヲ具備スルニ於テハ自由財
貨モ亦必ス交換價直ヲ生スルモノタルコトヲ忘ルヘカラス

斯クノ如ク價直ニハ利用價直ト交換價直トノ二大區別アレトモ前既ニ述ヘタ
ルカ如ク交換價直存在條件ノ一ハ利用價直ニシテ利用價直アリテ而シテ後始
メテ交換價直ノ生スルモノナレハ財貨ノ價直ハ畢竟單一ノ主觀的認識力ニ依
テ成ルモノナリ

註 交換價直利用價直ノ區別ハ同一物ノ二個ノ價直アルニ據ルニ非スシテ
同一ノ價直カ觀察ノ方面ヲ異ニスルニ基ヒスルモノナリ然レトモ天下ノ事
物皆此二個ノ價直ヲ備フルモノト述斷スヘカラス從來利用價直及ヒ交換價
直ニ關シテ議論ノ多ク存在セルカ如キハ畢竟觀察點ノ異ナレルニ由ルノミ
右述フルカ如ク交換價直ノ基礎ハ常ニ利用價直ニシテ利用價直ハ之ヲ有スル

財貨ト他ノ財貨トノ比較ニ依リテ確定スルモノナリ而シテ又財貨ノ需要ノ適切ナルト否トハ之ヲ他ノ財貨ト交換スヘキヤ否ヤヲ決スルノ根拠トナルヘケレハ其交換スヘキヤ否ヤニ依リテ利用價直ノ大小如何ヲ確定スルニ至ルヘシ是ニ由リテ之ヲ觀レハ利用價直ハ交換價直ニ依リテ確定セラレ交換價直ハ之ヲ有スル財貨ノ利用如何ニ依リテ生スルモノナレハ兩者ノ關係ハ實ニ車ノ兩輪鳥ノ雙翼ノ如ク互ニ相待テ始メテ完全ナルモノト謂フヘシ勿論利用價直ナルモノハ交換價直ヲ待テ始メテ生スルモノニアラスト雖モ交換價直ノ助ケニ依リテ之カ量定ヲ爲スニ非スンハ漠然捕捉スヘカラサルモノトシテ止マン例ヘハ人アリ琵琶湖ノ水ヲ汲テ呑マンカ此場合ニ於テ水ハ確カニ利用價用ヲ有スルコト疑フヘカラサルノ事實ナレトモ此ノ事實ノミニテハ之カ多少ヲ見積ルヲ得サルヘシ故ニ利用價直存在スルモ之ヲ明ニ數字ニ示シ議論上ニ證據立ツルニハ交換價直ノ量定ヲ待タサルヘカラス元來二者ノ區別ハ決シテ同一物カ二個ノ價直ヲ有スルニアラスシテ前ニモ言ヘルカ如ク同一價直ヲ一面ヨリ見レハ利用價直トナリ他ノ一面ヨリ見レハ交換價直トナルナリ

註 交換價直ト利用價直トハ互ニ相待テ完全ナルモノナリ抑モ利用價直ハ之ヲ有スルモノト他ノ利用價直ヲ有スルモノトヲ比較スルニ非サレハ其ノ多少ヲ知ルヘカラス利用價直ハ實ニ交換價直ノ量定ニ依リテ確定スルモノナリ故ニ兩者ハ恰モ鳥ノ雙翼車ノ兩輪ノ如ク相待テ始メテ完全ナルモノナリ即チ利用價直ノ額ハ交換價直ノ量定ヲ待タサレハ之ヲ確知スヘカラス然レトモ利用價直ト交換價直トハ單ニ同一ノ價直ニ對スル觀察點ノ異ナルニ因レル區別タルノミ

夫レ斯クノ如ク經濟學上價直ヲ利用價直交換價直ノ二種ニ區別シ此區別ハ同一價直ヲ二個ノ方面ヨリ觀タルニ過キサルモ尙ホ進ミテ主觀的認識力ニ基ク所ノ價直ノ定マルニハ如何ナルモノ、斟酌ヲ要スルヤト云フニ通常下ノ二者ヲ參照ス

一、財貨固有ノ利用即チ價直ヲ認メラル、モノ、有スル自然ノ利用

註 價直ノ起源タル主觀的認識力ハ茲ニ揭タル二ツノモノヲ基礎トシテ定マルモノナリ即チ其ノ一ハ財貨固有ノ利用ナリ詳言スレハ天然自然ニ人ニ

幾分ノ利用ヲ與フルノ性質ナリ而シテ天然自然ノ利用トハ甚タ漠然タルカ如キモ彼ノ水ハ一般ニ渴ヲ醫スルノ性質ヲ有スルカ如キ類ヲ云フナリ

二、財貨ヲ要スル人ノ欲望

此ノ二要件中第二ノ欲望ハ其ノ適切ナルト否トニ依リテ同一ナラサルノ結果ヲ生シ需要ト供給トノ關係ニ依リテ支配セラル而シテ需要ハ又社會上經濟上種々様々ノ事情ニ依リテ定マリタルモノナリ

註 人間ノ需要ヲ充タスニ足ラサル物ハ價直ヲ有スルコトナシ而シテ價直ノ生スル第一ノ要件ハ天然的ノ利用ニシテ第二ノ要件ハ財貨ニ對スル人類ノ欲望ナリ此ノ欲望ノ起因スル處ハ畢章需要ト供給トノ關係ナリ而シテ需要ハ社會上經濟上種々様々ノ事情ニ依リテ定マルモノトス換言スレハ需要ハ文明ノ程度風俗習慣等ニ因リテ定マリ舊派ノ諸學者カ言ヘルカ如キ單純ニ定マルモノニ非ス

右ノ二者先ツ斟酌セラレサルヘカラスト雖モ此外ニ尙ホ必要ナルハ種々ノ價直ノ比較サル、ヲ得ルコト是ナリ是レ特ニ交換シ得ヘキ財貨ニ於テ必要

ナルノミナラス同時ニ又交換シ得ヘカラサル財貨ニ於テモアリ得ヘキコトナリトス

尙ホ價直ノ事ニ關シ茲ニ一言スヘキハ交換價直ト價格トノ關係是ナリ

從來英佛米ノ經濟學者ニシテ廣義ノ價直ト價格トヲ同一視シタル者頗ル多ケレハ世人カ價直ノ一タル交換價直ト價格トヲ混同スルハ實ニ宜ナリ抑モ交換價直ノ價格ニ於ケル關係ハ財貨ノ交換サレ得ヘキ可能性カ現ニ交換サル、事實ニ於ケルカ如シ

註 交換價直ナルモノハ財貨ノ交換サレ得ヘキ可能性ナリ其果シテ實際交換サル、ニ至ルヤ否ヤハ未來ニ屬スル問題ナリ即チ交換サレ得ヘキ可能性ハ現ニ交換サル、實事ト同一視スヘカラス切ニ言ヘハ交換カ一ノ事實トナリタルトキニ於テ始メテ交換價直カ價格ヲ生スルナリ

價格ハ一種ノ財貨カ實際他ノ財貨ト交換セラル、ニ據リテ始メテ成立スルカ故ニ甲ノ價格ハ其ノ現ニ交換サル、乙ノ分量ニシテ乙ノ方ヨリ云ヘハ乙ノ價格ハ其ノ現在交換サル、ノ甲ノ分量ナリ例ヘハ米一舛ト紅茶一斤ト交換サル

レハ一升ノ價格ハ紅茶一斤ニシテ紅茶一斤ノ價格ハ米一升ナリ然ラハ價格ナルモノハ決シテ單獨ニ存在スルモノニ非ス他ニ比例シ他ニ關係シテ起ラサルヘカラス而シテ其起ルヤ自由交通ノ經濟社會ニ在リテハ財貨ヲ相互ニ交換スル人々ノ合意ニ依ルモノトス財貨ニシテ通常交換サレ自由交通ノ經濟社會ニ最モ多ク存在スルモノヲ稱シテ之ヲ貨物ト曰フ即チ有形ノ財貨ナリ貨物ニシテ交換セラレ交換ヲ職分トスルモノヲ稱シテ之ヲ交換ノ媒介ト曰フ今日ノ社會ニ於テハ貨幣即チ貨幣ハ實ニ貨物ノ一種ナリ

註 凡ソ價格ハ單獨ニ成立シ得ヘキモノニアラス交換サル、財貨ト財貨トノ比例ニ由リテ始メテ成立スルモノナリ價格ハ自由交通ノ經濟社會ニ於テ諸種ノ財貨ノ相互ニ交換セラレ、ニ因リテ生スルモノナリ又價格ハ原則トシテ法令ニ依リテ定マルモノニ非ス財貨ヲ交換スル人々ノ任意の合意ニ因リテ定マルモノナリ而シテ經濟社會ニ最モ多ク存在シ通常交換サル、財貨ヲ稱シテ之ヲ貨物ト曰フ貨物トハ畢竟有形ノ財貨ナリ而シテ常ニ他ノ貨物ト交換サレ交換ヲ常職トスルモノヲ稱シテ之ヲ貨幣ト曰フ

古ハ實物交換ヲ以テ僅カニ有無ヲ通シ特別ニ交換ノ媒介タル物ハアラザリキ現今ノ社會ニ在リテモ實物交換ノ全タ行ハレサルニ非サレトモ斯ル方法ニテハ到底充分ニ有無ヲ相通スルコト能ハスニ於テ乎貨幣ナルモノ起リ交換ノ媒介ヲ爲スニ至レリ

財貨ハ其交換サル、丈ケ其レ式ケ多クノ種類ノ價格ヲ有ス即チ各種ノ財貨ハ之ト交換サル、他ノ財貨ニ對シテ相互ニ交換ノ媒介タル者ト謂フヘシ斯クノ如ク價格ハ一個ノ財貨ノミニテハ存在セスシテ數個ノ比較ニ依リテ始メテ成立スルモノナルカ故ニ一財貨ノ價格カ騰貴スルト云フハ交換上他ノ財貨ヲ得ル割合ノ實際増加シタルコトニシテ一財貨ノ價格ノ下落スルト云フハ交換上他ノ財貨ヲ得ル割合ノ實際増加シタルコトニシテ一財貨ノ價格ノ下落スルト云フハ交換上他ノ財貨ヲ得ル割合ノ減少シタルコトナリ

註 財貨ノ價格ハ其屢々交換サル、丈ケ其レ式ケ多クノ種類ノ價格ヲ有ス例ヘハ米一升ト銅五尾ト交換サル、トキハ米一升ノ價格ハ即チ銅五尾ナリ而シテ更ニ半紙十帖ト交換サル、トキハ米一升ハ又半紙十帖ノ價格ヲ有ス

ルモノナリ是故ニ一財貨ノ價格ノ騰貴ハ其他ノ財貨ヲ得ル分量ノ増加ニシテ其下落ハ之ト交換シ得ヘキ他ノ財貨ヲ得ル分量ノ減少ナリ故ニ一財貨ノ價格カ他ノ種々ノ財貨ニ對シテ下落スレハ其他ノ財貨ト交換シ得ル比例カ減少シタル譯合ナリ然レトモ總テノ財貨カ同時ニ互ニ相騰貴シ又ハ互ニ相下落スルコトハ決シテ之アラサルナリ何トナレハ素ト價格トハ二種以上ノ交換比例ナレハ一方ノ騰貴スルハ一方ノ下落スルコトナレハ雙方共ニ騰貴シ若クハ共ニ下落スルコトハ道理上決シテ有リ得ヘカラサルコトナレハナリ

註 此點ハ一見疑ヲ生スヘシト雖モ少シク考フレハ直ニ明瞭ナルヘシ抑モ一財貨ノ價格騰貴スルハ他ノ財貨ノ價格下落スルコトナレハ總テノ財貨カ同時ニ共ニ下落シ若クハ共ニ騰貴スルコトハ決シテ有リ得ヘカラサルコトナリ何トナレハ價格トハ一物ト他物トノ交換比例ナレハナリ此關係ハ恰モ井戸繩ノ兩端ニ在ル釣瓶ノ一方カ上ルトキハ他方カ下リ雙方同時ニ下ルカ又ハ雙方同時ニ上ルコトナキカ如シ

然ルニ世間往々物價騰貴ノ聲ヲ聞キ總テノ財貨カ同時ニ騰貴シタル如ク思フ者アレトモ是レ實際決シテ然ルニアラス斯ル妄想ノ因リテ起ル所ヲ察スルニ畢竟今日ノ經濟社會ニ於テハ往昔ノ如ク茶一斤ノ價ハ米一升ナリ米一升ノ價ハ半紙十帖ナリ杯ト曰ハスシテ金十五錢ナリトカ又ハ金二十錢ナリトカ曰ヒ貨幣ヲ以テ價格ノ標準ト爲スヲ以テ總テノ財貨ノ騰貴シタルカ如ク見ユルハ其貨幣ニ對スル交換比例ノ異リタルコトニシテ貨幣以外ノモノ、騰貴シタルコトナレハ取リモ直サス物價ノ騰貴トハ貨幣ノ下落ナリ今日社會一般ノ有様ヲ見ルニ慣習ノ久シキ貨幣賣買ノ方法ノミ既ニ久シク世ニ行ハル、ヲ以テ物價騰貴トハ貨幣ノ下落ナルヲ知ラサル者紛カラサルナリ

註 是レ經濟學ノ初步ニシテ最モ眩易キ道理ナレトモ世人動モスレハ物價ノ騰貴トハ總テノ財貨ノ同時ニ騰貴シタルコトナリト誤信スル者アリ然レトモ物價ノ騰貴トハ貨幣以外ノ物ノ騰貴シタル義ナリ富ヲ換ヘテ云ヘハ總テノ財貨カ貨幣ニ對シテ騰貴シタルコトヲ意味スルモノナリ抑モ今日ノ經濟社會ハ古ノ貨物交換ノ時代ト異ナリ米一升ノ價ハ茶一斤ナリ杯ト云フコ

トナク貨幣ヲ以テ價格ノ標準ト爲シ金十五錢ナリトカ金二十錢ナリトカ曰
フヲ以テ物價騰貴ト云ヘハ即チ總テノ物ノ同時ニ騰貴シタルカ如ク思惟シ
總テノ物ノ中ヨリ貨幣ヲ取除キテ云ヘルモノナルコトヲ忘却スルハ往々之
アルコトナリ是レ吾人カ貨幣ニ慣ル、ノ久シキ知ラス斯ル誤解ニ陷
レルモノナリ

貨幣ヲ以テ言顯ハス所ノ價格ヲ稱シテ物價若クハ市價ト謂フ是ニ由リテ之ヲ
觀レハ物價若クハ市價ハ種々ノ財貨ト貨幣トノ比例ニシテ一種ト看做サ、ル
ヘカラス而シテ之ヲ貨幣カ種々ノ財貨ニ於ケル關係ノ點ヨリ觀察スルトキハ
貨幣ト交換サル、種々ノ財貨ハ貨幣ノ市價ニ非スシテ其價格ナリ

註 凡ソ物價トハ總テノ物ノ價ナルコト勿論ナレトモ此中ニハ貨幣ヲ包含
セサルコトヲ記憶セサルヘカラス何トナレハ物價若クハ市價トハ貨幣ニ對
シテ謂フ語ナレハナリ

斯クノ如ク物價若クハ市價ナルモノハ種々ノ財貨ト特種ノ財貨タル貨幣トノ
交換比例ナレハ貨幣ノ他ノ財貨ニ對スル價格ニシテ騰貴スレハ他ノ財貨ノ市

價ハ悉皆同時ニ下落シ貨幣ノ價格ニシテ下落スレハ他ノ財貨ノ市價ハ悉皆同
時ニ騰貴スヘキナリ故ニ價格ニハ決シテ悉皆同時ニ昇降スルカ如キコトナキ
モ市價ニハ之アリトス所謂物價騰貴トハ貨幣ノ購買方ノ下落ニシテ物價ノ下
落トハ貨幣ノ購買力ノ騰貴ニ外ナラサルナリ

註 總テノ財貨ノ價格ハ同時ニ昇降スルコトナシト雖モ貨幣ニ對スル價即
チ市價若クハ物價ノ昇降スルコトアルハ勿論ナリ物價ノ下落トハ貨幣ノ購
買力ノ騰貴ナリ之ニ反シテ物價ノ騰貴トハ貨幣ノ購買力ノ下落ナリ茲ニ注
意スヘキハ他ニアラス物價ノ騰貴ハ常ニ貨幣ノ下落ニ原因スルモノナリト
ノ誤解ヲ生スヘカラサルコト即チ是ナリ原因結果ノ問題ト事實ノ問題トハ
之ヲ混同セサランコトヲ要ス物價ノ騰貴若クハ下落ハ一ノ事實ナリ下落果
シテ貨幣ノ騰貴ニ原因セルカ將タ他ニ之レカ原因ノ存スルアルカハ場合ニ
依リ特ニ決定ヲ要スル問題ナリ現ニ我國ニ於テモ最近三四年以來此問題ヲ
議スル者多シ而シテ其論旨ハ銀論者ト金論者トニ因リテ分レ居レリ金論者
ノ主張スル所ニ據レハ近年ニ於ケル物價ノ騰貴ハ専ラ銀ノ下落ニ原因セリ

ト昨年十月ニ至ルマテ我貨幣ノ銀本位ナリシハ諸君ノ知ル所ナリ之ニ反對
 スル銀論者ノ說ニ曰ク銀ノ下落ハ金論者ノ說ノ如シ故ニ物價ノ騰貴ニ多少
 ノ影響ヲ及ホシ、ハ勿論ナルヘシト雖モ其重ナル原因ハ二十七八年ニ於ケ
 ル日清戰爭ノ餘波トシテ中等以下ノ者ノ購買力一時遽カニ増加シ種々ノ財
 貨ニ對スル需要遙カニ供給ニ超エタルコト即チ是ナリ例ヘハ土木建築工事
 ノ盛ナルカ爲メ材木ノ如キ物ノ需要非常ニ増加シ勞力ニ對スル社會一般ノ
 需要モ隨テ起リ勞銀非常ニ騰貴シ延テ一般物價ノ騰貴ヲ來セリ殊ニ銀ノ最
 モ下落セルハ二十六年ニ在レハ之レカ爲メ三十年三十一年ニ至リ漸ク物
 價ノ非常ニ騰貴スヘキ理由ナシ加之ナラス三十年十月以後實施サレタル金
 貨本位ハ寧ロ物價ヲシテ幾分カ下落セシムヘキ傾向ヲ有スルモノナリ然ル
 ニ之レカ實施以來却テ全ク反對ノ現象ヲ呈セタルニ由リテ之ヲ觀レハ物價
 騰貴ノ罪ハ獨リ銀ノ下落ニノミ歸スヘカラス之ヲ要スルニ近年物價ノ非常
 ニ騰貴セル原因ヲ探求スルニ銀ノ下落モ其一ナルヘシト雖モ抑モ亦他ニ貨
 幣以外ノ原因アルコト疑フヘカラス而シテ此議論タル獨リ我國ニ於テノミ

其家族カ能ク其義務ヲ盡スヤ否ヤヲ觀察セシメンカ管ニ德義ヲ害スルノミナ
 ラス却テ一家ノ平和ヲ破ルニ至ルヘシ是故ニ法律ハ唯人類行爲ノ外部ニ干渉
 スルノミニシテ其内部ニ干渉スルコトヲ得ス隨テ法律ハ惡人ニモ善人ニモ一
 視同等ニレテ愛憎ナク偏頗ナク公平無私ナラサルヲ得ス即チ不偏不黨ハ合法
 ナルト否トヲ判定スル第一ノ要件トス今租税ノ合法ナルト否トヲ判定スルモ
 亦之ト異ナルコトナク不偏不黨ヲ以テ其要件トス然ラハ如何ニスレハ租税ハ
 不偏不黨ナルヘキカ曰ク比例的割合ヲ以テ之ヲ課スルノミ然レトモ唯此一言
 ヲ以テ未タ足レリトモ頻ラク吾人ノ眼前ニ横ハレル所ノモノハ如何ニシテ
 比例的割合ヲ知ルコトヲ得ヘキカノ問題ヲ決セサルヘカラス而シテ此問題ニ
 答フルニ二派アリ曰ク衡平制度之ヲ舊派トシ曰ク財產制度之ヲ新派トス請フ
 以下之ヲ説カン

衡平制度一ニ之ヲ利益制度ト稱ス此派ノ主張スル所ニ依レハ各租稅義務者ハ
 自己カ國家ノ行爲ヨリ受ケタル利益ト同一ノ比例ヲ以テ國家ノ費用ヲ負擔ス
 ヘシト云フニ在リ即チ其受ケタル利益ト支拂フ所ノ負擔ト相比例スルヲ以テ

租税ノ合法ナリトセリ此見解ニ依レハ總テノ租税ハ今日所謂手數料ト其性質ヲ同シウスルモノト謂ハサル可カラス抑モ此說ハ中古以來國費ノ大部分ハ之ヲ自己ノ領地ノ收入ヲ以テ支辨シタリシ家長權國家ニ於テ專ラ行ハレ爾後君主專制國ト爲リテ以來國家ノ事業大ニ擴張セラレ隨テ臣民ノ負擔非常ニ増加シタル時ニ當リテ學者ノ唱導シタル所ノモノナリ當時ノ學者タロンケー氏曰ク數百萬圓ノ財產家ト雖モ其財產ヲ外國ニ於テ運轉スル者ハ租税負擔ノ義務ナシト亦以テ租税ハ其受クル所ノ利益ニ比例スルト爲スモノタルヲ知ルヘキナリ

此制ニ隨ヘハ各臣民カ平均ニ國家ヨリ受クル所ノ利益ト其特別ニ國家ヨリ受クル所ノ利益トヲ計算セサルヘカラス而シテ其利益ノ多少ニ應シテ負擔ノ大小ヲ定ムルト云フニ在リト雖モ是實際上爲シ得ヘキ所ニアラス今最モ單純ナル例ニ就テ之ヲ言ハンニ國家カ或道路ヲ修繕シタリトセヨ人々カ其利益ヲ受クルニ多少ノ差アルハ論ヲ俟タサル所ニシテ運送業者ノ如キハ多クノ利益ヲ受クルモ其道路ヲ通行セサル者ハ毫モ其利益ヲ受クルコトナカルヘシ然レト

モ實際其道路ニ因リテ利益ヲ受クル者ト否ラサル者ト其利益ヲ受クルコト多キ者ト少キ者トヲ判別スルコトヲ得ス殊ニ國家事業中最モ切要ナルモノ例ヘハ外交ノ如キ陸海軍ノ如キ事業ハ利益ヲ各臣民個々ニ分配スルコトヲ得サルモノナリ故ニ個々別々ニ之ヲ分チ利益ノ計算比例ヲ爲スハ不能ノ事ト謂ハサルヘカス

或ハ曰ク國家事業ハ其全體ヨリ之ヲ觀レハ一種ノ保險ニ外ナラス即チ臣民ノ生命及ヒ財產ヲ保護スル爲ノ保險ナリト此說ハ租税ヲ以テ被保險者カ保險會社ニ對シテ支拂フ所ノ保險料ト同視スルモノナリ然レトモ此說ニ依レハ不都合ナル結果ヲ生スヘシ何トナレハ國家ハ法律ヲ以テ人ノ物ヲ盜ムコトヲ禁シ之ヲ豫防スル爲ニ警察ヲ置キ又既ニ盜ヲ爲シタル者ヲ待ツニ刑罰ヲ以テシ以テ國民全體ノ爲ニ財產安固ナル想像上ノ物件ヲ作りテ之ヲ保護セリ然リト雖モ國家ハ保險會社カ被保險者ニ保險料ヲ支拂フカ如ク其盜難ニ罹リタル者ニ對シテ國庫ヨリ賠償金ヲ與フルコトナシ若シ警察ノ如キ國家ノ事業ヲ以テ一ノ保險事業ト同一視スレハ國家ハ盜難等ノ損害ニ付キ國民ニ對シテ賠償ヲ爲

スノ義務ヲ生セサルヲ得スト雖モ國家ニ此ノ如キ義務アルコトヲ認めサル以上ハ國家ノ事業ヲ以テ保險事業ト爲スノ誤レルコト明ナリ
 又曰ク「各人ハ己レノ爲ニ國家ニ生セシメタル國費ニ相當シテ租稅ヲ負擔セサルヘカラス」ト此說ニ依レハ極貧者ハ富ニ比例的ニ於テノミナラス絶對的ニ於テ富者ヨリ多クノ租稅ヲ負擔セサルヘカラサルノ結果ヲ生スヘシ何トナレハ一所ニ聚合セル百萬圓ノ財產ヲ保護スルト所々ニ散在セル百圓ノ財產ヲ保護スルト其保護ノ難易ヲ比較セハ所々ニ散在セル百圓ノ財產ヲ保護スルノ困難ニシテ又多クノ費ヲ要スルカ如ク貧民ヲ保護スル爲ニ要スル國費ハ富者ヲ保護スル爲ニ要スルモノヨリモ多シ加之最モ多ク國家ノ補助ヲ要スル者ハ貧民病者鰥寡孤獨等ニレテ富者ハ自ラ己ヲ保護スルコトヲ得テ國家ノ干渉ヲ要スルコト多カラサルヲ以テナリ是ニ依テ之ヲ視レハ中古以降近世ニ至ルマテ衡平主義ノ盛ニ行ハレタル時ニ當リテ租稅ノ負擔ヲレテ重ニ貧弱ナル者ノ肩ニ荷ハシメ却テ富強ナル者ニ輕カリシカ如キモ亦決シテ怪シムニ足ラサルナリ

衡平制度ヨリ財產制度ニ移リタル最モ顯著ナル事例ハ千六百三十四年英國ニ於テ「チャールズ」第一世カ「ジッブマニ」即チ船錢ト稱スル一種ノ租稅ヲ徵收シタル事例ナリトス當時「ベトリ」海峽ニ於ケル漁業ヲ保護センカ爲ニ屢軍艦ヲ派遣スルノ必要アリシヲ以テ各漁船ヨリ若干ヲ徵收シテ之ヲ其費用ニ充當シタルナリ是時ニ方リテハ此船錢ニ對シテ未タ何等ノ攻撃ヲ爲ス者アラサリシカ後此制ヲ擴張シテ各港灣ニ存在スル何等ノ保護ヲモ要セサル總ヘテノ船艚ニ及ホスニ至リ爲ニ輿論ヲシテ大ニ紛起セシメタリ

所謂財產制度ノ說ヲ按スルニ國家ハ國民生活ノ最好機關トシテ必要ナルモノナリ又國家ハ不朽ノモノニシテ人ハ皆國家ノ内ニ存在シ且發達ス「アリスト」ト「氏」既ニ數千歲ノ往昔ニ於テ立言シテ曰ク「國家ナク國家ノ用ナクンハ人類ハ動物ニアラサレハ神ナリ」ト「政治論」又近世吾人ノ屢耳ニスル一ノ套語アリ曰ク「國家ハ強制的共同經濟團體ナリ」ト若シ此語ヲ解レテ強制的ト云フハ唯其組織ノミニ關スルモノトセハ國家ハ實ニ不具ノ者ト爲リ決シテ永久ニ存續スルコトヲ期スヘカラスト雖モ此語ハ決シテ此ノ如キ意味ニ用弗ラレタルニアラ

ス國家カ其臣民ニ對シテ外交上無限ノ強制權ヲ有セルコトヲ表示セシカ爲ニ外ナラス然ラハ則チ國家ハ實ニ臣民ニ取リテ必要ナルモノト謂ハサルヲ得ス國家既ニ必要ナリトセハ則チ其國家ノ存立ニ缺タヘカラサル費用ハ臣民之ヲ負擔スルノ義務アリ否均一ニ之ヲ負擔セサルヲ得ス而シテ其負擔ノ均一ニ付テハ絕對的ナルヤ若クハ比較的ナルヤノ議論アリシユマルツ氏「財政學」ニ論シテ曰ク「臣民ノ負擔ハ絕對的ニ均一ナル可レ何カ故ニ富者ハ貧者ヨリモ多クノ租稅ヲ課セラルヘキ者ナルカ一モ法律上ノ理由アルコトナシ彼ノ麥酒ノ如キ麵包ノ如キ若クハ劇場ノ席料ノ如キ其購買者又ハ觀劇者ノ貧富ニ因リテ等差アルコトナシ

又司法事務ニ付テ之ヲ觀ルニ一萬圓ノ訴訟ニ對シテ判決ヲ爲スモ二十圓ノ訴訟ニ對シテ判決ヲ爲スモ判事ノ爲スヘキ努力ニ難易ノ別アルコトナシ尙他ノ國家事業ヲ以テ之ヲ言ハンニ例ヘハ警察事業ノ如キ其警護ハ矮屋小家ニ寛ニシテ大厦高樓ニ嚴ナルヘキ理ナシ豈貧者ト富者ト國家ニ對シテ負フ所ノ負擔義務ニ大小輕重ノ等差アルノ理アラザヤト「ゼイゲン」氏モ亦曰ク「凡ソ臣民ハ自

由團體ノ仲間トシテ同等ニ租稅ヲ負擔スル義務アリ其貧ニシテ貨幣ヲ以テ此義務ヲ果ス能ハサル者ハ課役ヲ以テ之ヲ果サ、ルヘカラスト此等ノ學者ハ絕對的ノ均一ヲ主張スト雖モ真正ノ平等ハ絕對的ノ平等ニアラスシテ比較的ノ平等ナリトス即チ曾テ説述セル如ク各人ヲシテ國家ナカリセハ抛擲セサルヘカラサル格段ナル快樂ト均シキ部分ヲ國家ニ提供セシムルヲ以テ真正ノ平等トシ之ヲ其財產ニ課スルモ又ハ之ヲ其收入ニ課スルモ其結果ハ同一ニ歸スヘシ「ミル」氏ノ「經濟原論」第五卷第二章ニ曰ク「租稅ノ公平トハ犠牲ノ公平ト云ヘル意義ニシテ千圓ヨリ一圓ヲ徵收スルト百圓ヨリ十錢ヲ徵收スルト其犠牲同一ナリトセハ則チ租稅ハ公平ヲ得タルモノナリト「ウツベンバハ」氏尙之ヲ闡明シテ曰ク「各人ヲシテ皆同一ノ困難ヲ感スル如クナラシムヘタ其一人ヲシテ他人ヨリモ大ナル困難ヲ感セシムコトナカレト又曰ク凡ソ租稅ハ之ヲ徵收シタル後ニ於テモ之ヲ徵收セザリシ以前ニ於テモ各臣民相互ノ關係ヲシテ同様ナラシムヘシト「ウオルカー」氏モ亦曰ク「臣民ヲシテ其舊地位ヲ保タシムヘシト又多數ノ學者ハ曰ク「租稅ハ各人ノ消費スル所ノ物ニ課スヘシト其意彼ノ「衡平制度

ノ説ノ如ク各人カ國家ノ事業ヲ消費スルノ多少ニ應シテ課税スヘシト云フニ
 アラスシテ各人ノ消費スル所ノ物ニ因リ其貧富ノ状態ヲ知悉スルコトヲ得ル
 カ故ニ之ニ準シテ課税スヘシト云フニ在リ千七百九十一年ノ佛國憲法第十三條
 ニ此主義ヲ採用セリ曰ク公力ヲ支持スル爲ニ及ヒ公共行政ノ費用ヲ補フ爲ニ
 各臣民ハ其財産ニ應シ義ハ千七百九十五年千平等ニ課税セラルヘシト此主
 八百十四年千八百三十年及ヒ千八百四十八年ノ同國改正憲法等ニ於テモ亦之
 ヲ認メタリ之ヲ稱シテ財産制度ト謂フ

然レトモ眞實正當ニ課税セント欲スルトキハ財産ト云ヒ收入ト云ヒ孰レモ唯
 其數字上ノ額ノミニ着眼スルトキハ甚タシキ誤解ヲ來スコトアルヘキヲ以テ
 必スヤ其内部ニ立入りテ義務者ノ經濟的需要ニシテ國家モ亦視テ以テ相當ノ
 モノナリト認ムル所ノモノニ付テハ公平ナル顧慮ヲ與ヘテ相當ノ免除ヲ爲ス
 ヘキナリ例ヘハ此ニ同額ノ收入ヲ有スル二人ノ義務者アリ而シテ其一人ハ頗
 ル健全ナル獨身者ニシテ他ノ一人ハ數多ノ病兒ヲ養育セル病父ナリト假定セ
 ヲ今若シ此二人ヨリ其收入ノ同一部分ヲ徴收スルトキハ其租税ノ額ハ均一ナ

ルモ義務者ノ感スル所ノ負擔ハ甲乙甚タ異ナルヘシバトヒ一氏論シテ曰ク此
 ニ都市ニ接近セル土地ヲ所有スル者アリ所有者ハ後來此地ニ家屋ヲ建築セン
 ト欲スト雖モ現在ハ此地ヨリレテ何等ノ收入ヲモ取得セス然レトモ之カ爲メ
 ニ此土地ニ課税セサルハ不當ナリト

又此ニ第三說ヲ唱フル者アリ是實ニ理論家ノ唱フル所ナルノミナラス多クノ立
 法者モ亦之ヲ採用セリ其說ニ曰ク課税ノ正當ナル標準ノ基礎ト爲スヘキモノ
 ハ財産ニアラス又收入ニアラス實ニ納税能力ナリト今立法上此精神ノ發表セ
 ラレタル實例ヲ示セハ千八百五十一年ノ「ハイエール」州寺院令ニ曰ク「寺院ノ費
 用ハ義務者間ノ納税能力ニ應シテ之ヲ負擔スヘシト又千八百五十年ノ「オルデ
 ンブルグ」州寺院憲法ニ「町村ノ納税力ニ應シテ云々」ト規定セリ其他埃普等ノ諸
 州ニ於テ近來税法改正ノ方針ハ蓋シ亦此精神ヲ酌メルコトニ「ノイマン」氏ノ著
 書ニ依リテ明ナリ千八百七十年ノ「デー」國所得税法ニ於テハ「特別ノ事情アル
 場合即チ疾病、家族困窮又ハ兵役中等ノ場合ニハ免税ス」トノ規定ヲ設ケ又北米
 合衆國諸州及ヒ瑞士等ノ税法ニ於テハ「衰弱者、孤兒、寡婦等ハ他ノ義務者

ニ比スレハ寛假セラル、コトアリ是等ハ皆納税能力ヲ觀テ以テ之ニ課税スルノ主義ヲ探レルモノナリ又學者ニシテ此說ヲ探レルハ「ボデニユース」氏ノイマン氏「ウォールカー」氏等ニシテ就中「イマン」氏ヲ以テ最モ有名ナリトス此主義ニ反對スル者ハ曰ク納税能力ヲ以テ課税標準ノ基礎ト爲スハ或ハ可ナラン然レトモ實際各人ノ差等ヲ奈何セン之ヲ詳言スレハ同一ノ收入ヲ有スル者ノ間ニ於テモ其納税能力ハ必スシモ同一ナルヲ得ス其差等モ亦常ニ確定スルモノニアラスシテ變動止ム時ナカルヘシ然ラハ納税能力ヲ定ムルニ課税者ノ意ニ放任スルノ外ナカルヘシ「ナワセー」氏曰ク試ニ問ハン各人カ其勉勵ニ因リテ其收入ヲ如何程度増加シ得ヘキカヲ測知スルコトヲ得ルヤ之ヲ測知スルコト能ハス之ヲ計算スルコト能ハスンハ則チ以テ課税ノ標準ト爲スヘカラス又此原則ニ依ルモ各人ノ眞實ノ納税力ハ之ヲ測知スルニ由ナカルヘシ何トナレハ各人ハ常ニ慙ムヘキ不幸ナル事情ヲ申述スヘケレハナリ隨テ租税ハ不確定ナルヘク租税ノ不確定ハ不公平ナルヨリモ一層其害多カルヘシト然レトモ前ニ舉示シタル多クノ國ニ於テハ此主義ヲ採用シ各人ノ納税能力ヲ測知センコト

ヲカメ單ニ其收入ヲ以テ課税ノ標準ト爲サ、ルヲ以テ見レハ此原則ニ依ルモ必スシモ實際其能力ヲ知ルコトヲ得サルハ明ナリ又千四百二十七年ノ時昔ニ於テモ此原則ハ業ニ已ニ實行セラレ伊太利國「フロレンツ」ノ財産税ハ其收入ヨリ家族一人毎ニ百「フロリン」ヲ賦シ其收入ノ殘額ニ課シタリ又千八百六十六年ノ「ハンブルグ」國所得税法ニ依レハ四千五百「マルク」以下ノ所得者ニシテ四人以上ノ家族但シ十四歳以下ノ小兒ハ二人ヲ以テ一人ト看做スヲ養育スル場合ニハ其税額ノ四分ノ一ヲ減スヘシトノ規定アリ是レ皆實際ノ納税能力ヲ知ルノ方法トシテ規定シタルモノニシテ其他ノ實例亦尠シトセス「ロテック」氏ハ此原則ニ付テ憂慮シテ曰ク若シ納税力ヲ以テ課税ノ標準ト爲ストキハ始ト盜奪ノ如キ又共産制度ノ如キ結果ヲ呈スヘシ何トナレハ例ヘハ毎年拾萬圓ノ收入ヲ有スル者ヨリ其半額ヲ徵收スルモ尙其殘收入ハ毎年千圓ノ收入ヲ有スル者ヨリモ多クノ納税力ヲ有スルカ故ニ更ニ此者ニ課税セサルヘカヲサルニ至レハナリト此非難ハ固ヨリ一理ナキニアラスト雖モ恐ラクハ杞憂ニ過キス「イマン」氏ノ說ヲ玩味スレハ氏ハ既ニ此憂ヲ避ケタルヲ知ルヘシ其言ニ曰ク同等ノ勞

力即チ同等ノ犧牲ニ該當ス分量ニ於テ課税スヘシト此說ニ依レハ單純ニ其納税力ニ應シテ課税スルニアラス例ヘハ一萬圓ニ課スルニ千圓ノ租税ヲ以テスルト千圓ニ課スルニ百圓ヲ以テスルト其犧牲同一ナルカ如シ故ニ「ロテック」氏ノ憂ハ憂トスルニ足ラサルナリ此憂慮ハ「ロテック」氏ノ「ミナラス」フオヒ「ヘル」氏モ亦是猶ホ財産ノ其者ニ存屬スルカ故ニ之ヲ懲罰セヨト云フニ異ナラスト云ヘリ以上陳述シタル衡平制度ト財産制度ト何レカ其當ヲ得タルカヲ考フルニ其一ヲ專ラ適用スルコトヲ得ス兩々相待テ完全ナルコトヲ得ヘシ蓋シ國家ニ於ケル臣民ハ皆一身ニシテ二人ノ資格ヲ具有スルモノナリ即チ其一ハ自立自營ノ一個人タル資格ニシテ他ノ一ハ國家ノ一要素タル公民ノ資格トス之ヲ一個人タル點ヨリ觀レハ衡平主義ヲ以テ合法ト爲スヘク之ヲ國家ノ公民タル資格ヨリ論スレハ財産主義ヲ適用セサルヲ得ス更ニ之ヲ國家ノ費用ニ付テ觀察セシカ國家ノ費用ニ國家全体ノ爲ニ必要ナルモノト各臣民平等ニ必要ナルモノト又國家全体ノ爲ニモアラス各臣民平等ノ必要ニモアラスシテ臣民毎ニ特別ニ費ス所ノ費用即チ一人又ハ數人若クハ或階級ノ爲メニ要スル費用トノ區別

アリテ此等總テノモノハ皆租税ヨリ支辨セラル、モノトス而シテ此終ノ費用ヲ支辨スヘキ租税ハ其性質上各個人カ國家ヨリ受ケタル利益ニ比例スヘシ然レトモ第一第二ノ費用ハ國家ノ公民トシテ之ヲ負擔セサルヘカラサルカ故ニ國家ノ事業ノ擴張ト共ニ又國家開明ノ進歩ト共ニ一年増加スヘキコト勿論ナリ而シテ此等ノ費用ハ各臣民間其収入ノ多少ニ應シテ之ヲ分擔セサルヘラス又右三種ノ費用ノ外ニ必要ナル國家支出ニシテ各臣民ノ收入ヨリ徵收スル所ノ租税ヲ以テ支辨セラル、コトナク一ニ國家ノ請求ニ應シテ或ハ現金ヲ以テ或ハ物品ヲ以テ若クハ勞力ヲ以テ之ニ充ツヘキモノアリ國家一朝此ノ如キ費用ヲ要スルコトアレハ則チ能力主義ニ訴ヘ各臣民ノ貧富ニ應シテ其實力ノ許ス限リハ之ヲ盡スヘキナリ然レトモ斯ル場合ニ於テハ成ルヘク速ニ又成ル可ク十分ニ其一時過度ニ負擔セシメタル所ノモノヲ賠償シ以テ其負擔ヲシテ財産額又ハ收入額ニ相當セシム可キナリ

右ノ理論ハ「アダムスミス」氏ノ「富國策」ニ於テ既ニ之ヲ認メタルモ「ハ」理論的ニ之ヲ説明セザリシヲ以テ人ノ之ヲ知ラサル者多シ即チ「ハ」各人ノ能力即チ各

人カ國家ノ保護ノ下ニ於テ享有スル所ノ收入ニ應シテ課税スヘシト云ヘリ又「ロツ」氏ハ衡平主義ヲ探ル所ノ學者ナレトモ其主義ヲ實行スルニハ財產主義ニ依リテ改良セサルヘカラスト云ヒ「ノイマン」氏ハ明ニ各臣民ノ利益ノ爲ニスル所ノ國家ノ歳出ト國家ノ義務ニ屬スル歳出トヲ區別セテ前者ハ割前ヲ以テシ後者ハ租税ヲ以テ支辨ス可シト云ヘリ然レトモ「ノイマン」氏カ二者ノ間ニ立テタル境界線ニ付テハ多少ノ異議ナキニアラサル可シ即チ氏ハ堤防負擔ハ國家ノ事業ニアラサルヲ以テ割前金ヨリ之ヲ支辨スヘク又教育費ハ國家ノ義務ニ屬スルモノニシテ租税ヲ以テ支辨スヘシト云ヘルモ此境界ニ付テハ素ヨリ異議ヲ免カレサルナリ然レトモ國家ノ費用ヲ區別シタルハ吾人ノ意ヲ得タルモノトス蓋シ始メテ此真理ノ萌芽ヲ發見シタルモノハ「ホミハイリス」氏ナルヘシ氏ハ曰ク爲シ得ヘキ場合ニ於テハ衡平主義ヲ實行スルヲ以テ正當ナリト爲スヘシト即チ其裏面ニハ衡平主義ノミヲ以テ説明スルコト能ハサルモノアルコトヲ認メタルモノナリ而シテ所謂成レ得ヘキ場合即チ衡平主義ヲ適用シ得ル場合ハ町村ノ租税ニ於ケル國家ノ租税ニ於テヨリ遙ニ多キコト猶ホ國外

ノ租税ハ總テ國家ノ名ニ於テ課スル所ノモノナレハ公民トシテ之ヲ辭スルコト能ハサルト殆ト同様ニ明白ナル事實ナリトス人間ノ弱點ノ結果トシテ租税ノ正當如何ノコトモ實ハ一個ノ理想ニ過キサルナリ而シテ國家ハ皆此ノ理想上ノ完全ヲ得ンコトヲ力ムト雖モ最良國民ノ最良政府ト雖モ未ダ曾テ此理想上ノ完全ノ域ニ達シタルモノアルコトナシ是レ蓋シ租税徴收機關ノ止ムヲ得サル不完全ノ爲メ千種萬態ノ租税移轉ノ爲メ又主トシテハ人々差等ノ甚タシキ假令各人平均同一ノ財產ヲ所有スルモ其財產ノ運轉ノ巧拙ニ因リテ全ク異ナル經濟力ヲ附與スルカ爲メニ生スル所ノ必然ノ結果ナリトス又之ヲ過去ニ徵スルニ歴史ハ正當主義ニ背キタルコトヲ以テ充滿セリ貴族政治ノ時代ニ於テハ事皆高等階級者ノ利益ノ爲ニ規定セラレタリ唯其國民ノ輿論ヲ顧ミテ多少ノ改良ヲ促カシタルノミ又腐敗セル共和國及ヒ之ニ繼キテ起ル所ノ奸勇君主國ニ於テハ事皆反對ノ方向ヲ取り衆民ノ利益ノ爲ニ規定セラレタリ而シテ租税宜シキヲ得サルトキハ皆ニ不幸ノ者ヲシテ自己ノ負擔スヘキ租税ノ外ニ幸者ノ負擔スヘキモノヲモ併セテ負擔セシム

ルノミナラス幸者ト競争ヲ爲スノ甚タ困難ナルヲ以テ實ニ其不幸ヲ三倍ニスルモノト謂ハザルヲ得サルナリ
 課税ノ重キカ爲ナラス他ニ課スルノ輕キカ爲ニ競争上起ツコト能ハスシテ倒レタル製造所實ニ其數ヲ知ラサルナリ地租ヲ免セラレタル土地ハ實ニ其所有主ニ賣物ヲ獻スルモノナリ又彼ノ西班牙國其他ノ國ニ於テ有名ナリシ「アルカバラ」如キ各賣者ニ對シ其賣價ノ一部分ヲ徵收セシヲ以テ土地ニ付テ之ヲ論スルトキハ唯賣却セラルヘキ土地ノミニ課セラレ會テ賣却セラレサル土地即チ世襲財産ニハ少シモ課税セラレサリシヲ以テ廣大ナル土地ノ所有主ハ實際此租税ヲ課セラレサルト同様ナリ隨テ不公平且ツ不正當ノ結果ヲ呈シタルヤ爭フヘカラサルナリ又消費品ニ付テ之ヲ論スルトキハ貧者ハ第一賣主ノ手ヨリ直接ニ之ヲ買得スルコト稀有ニシテ大抵ハ數多ノ手ヲ經テ之ヲ購求スルヲ以テ其間ニ課セラレタル數度ノ租税ヲ重テテ負擔スル地位ニ立ツヘシ之ニ反シテ富者ハ一時多量ニ第一ノ賣主即チ製造元等ヨリ直接ニ買得シ得ルヲ以テ其負擔却テ輕シ

「アルカバラ」トハ西班牙國ノ一市ニ於テ第十一世紀以來賦課セラレタルモノニシテ其初ニ當リテハ後日ノ如ク多害ノモノニハアラザリシヤ此租税ハ酒麴鮑魚肉獸肉其他一度賣却セラレタル後速ニ消費セラル、所ノ物品ハ大抵其賣價ノ五分ヲ課收セリ而シテ千三百四十二年ニハ凡テノ賣品ニ推シ擴メラレタリ「コルメイロ」氏西班牙國政治經濟史第一編第四章第十六世紀及ヒ第十七紀ノ頃ノ有様ハ「フォレスト」氏ノ著書ニ明ナリ今其一班ヲ舉ケンニ家蓄ハ前後三度課税セラレタリ第一度ハ牧畜場借用ノ時但シ此ノ借入ヲ賣買ト稱セリ次ニハ市場ノ賣買ニ際シ終ニハ肉賣ニ課セラレタリテ隨テ小地面ハ登記手數料等ヲ以テ既ニ比較的ニ重ク壓抑セラレタル上ニ又「アルカバラ」ヲ課セラレタルヲ以テ賣却ハ切迫止ムヲ得サル場合ノ外實際少シモ行ハレサルコト、爲レリ「ブルゴ非ンブ」氏西班牙國勢表其後女王「イリベラ」ノ賢明ナル初ハ此ノ租税ヲ非常ニ制限シ後「モノレン」ノ戰爭終ルヤ全ク之ヲ廢止セリ「アラゴン」及ヒ「カタロニヤ」ノ隆盛ヲ來タセシ一大原因ハ蓋シ此「アルカバラ」ヲ廢止ニ在ルヘシト論スル史家アリ「タウンセンド」旅行記佛蘭西ニ於テモ亦第十四紀第十五世紀ニ於テ「アルカ

「ラ」徴收セリ然レトモ暫時ニシテ之ヲ廢セリ「シスモンデー佛國史」又千五百九十七年之ヲ「バニカル」テナル新名ヲ以テ再興セリト雖モ爲ニ一揆ヲ起レ千六百二年ニ至リ再ヒ之ヲ全廢セリ又「キポール」ニ於テハ各取引ニ三分ノ「アルカバ」ヲ課セリ其他實例尙ホ多シ就中著名ナル「ハブレメン」ニ於テ各賣却ニ課シタルモノニシテ「各賣買」ニ六分ノ「一千八百八十四年」ニ至リ商人ニ課シタル營業稅ヲ以テ之ニ代ヘタリ

伊太利ノ或州ニ於テ「アルカバラ」ニ類似セル「センラシマ」十分一ノ義ナル租稅ヲ課シタルコトアリシカ當時國民ノ攻撃甚タシカリカ故ニ當事者ハ此攻撃ニ對シ辨解シテ曰ク若シ此稅ヲ廢セハ軍隊ヲ養成スヘカラサルヲ奈何セン「ト蓋シ當局者ハ既ニ其不正ナルコトヲ自認シタリシナリ

以上述ヘタル所ノモノハ不正ノ最モ甚タキモノナリ又英國ノ事例ニ付テ一言センニ英國ハ單ニ行政上ノ便宜ヲ計リ自家飲用ノ麥酒及ヒ食用麵麩ニ課稅スルコトヲ免除セリ是レ富豪者ノ利益ヲ圖リシモノニシテ細民ハ却テ富豪者ヨリ高價ノ飲食ヲ爲スノ結果ト爲レリ何トナレハ細民ハ自家ニ於テ麥酒及ヒ

麵麩ヲ製造スルコトヲ得スシテ免稅ノ幸ヲ得ルモノハ獨リ富豪ノミナレハナ

第十四節 累進稅

累進稅即チ富裕ナル義務者ヲシテ管ニ絶對的ノミナラス比較的ニモ貧者ヨリ多クノ租稅ヲ負擔セシムル所ノ租稅ハ彼ノ衡平主義トハ全ク相容レサル所ノモノナリ此累進稅ヲ非難スル學者中ニ有名ナル「レオン、ポリュー」氏ニシテ「ハ累進稅反對論者」ノ代表者タルヘキ地位ヲ占ム其說ニ曰ク商人カ其商品ヲ賣却スルニ當リ富者ニハ他人ヨリモ高價ニ賣ルモノニアラス常ニ公平ナル地位ヲ保テリ「ト

然レトモ累進稅ハ財產主義トハ甚タ相接近セルモノニシテ殊ニ普通消費ノ原則トシテ益富ムニ從ヒ其必要ナル需要ヲ充タス爲ニ費ス所ノモノハ其全收入ニ對シテハ益小部分ト爲ルモノナルカ故ニ此點ヨリ觀察スレハ二者ハ益相接近セルモノタルヲ知ルヘシ且間接稅ニ付テ累進法ヲ實行スルモ未タ曾テ甚タシキ攻撃アルヲ聞カス殊ニ奢侈品ニ課スル所ノ租稅ハ常ニ累進的間接稅タル

性質ヲ有ス何トナレハ富者ハ多ク奢侈品ヲ消費スレハナリ間接税ニ於テ既ニ然リ豈獨リ直接税ノ場合ニ於テノミ之ヲ攻撃スルノ理アラランヤ昔ニ極端ナル社會主義ノ論者ノミナラス現今ノ國民經濟論者ノ代表者タル學者モ大抵累進税ノ適當ナルヲ辨明シ且之ニ附加シテ曰ク「多クノ間接税ハ比例上貧民ニ重クシテ富者ニ輕キ結果ヲ呈スルモノナリ故ニ一方ニ於テ收入税又ハ財産税等ノ直接税ニ累進法ヲ用非彼此相補充スルハ最モ其當ヲ得タルモノナリ此ノ如クシテ始メテ適正ノ比例ヲ得ヘシト又之ニ反對スル說ヲ示サンニ獨逸ノ社會主義學者ブロードホーン氏曰ク「累進税ハ共和的玩具ニ過キス何トナレハ巨大ナル資本家ハ稀有ニシテ小收入家多數ナルカ故ニ此法ヲ用ユルカ爲ニ著シク國家ノ收入ヲ増加スルコトハ實際殆ト之ナカルヘケレハナリ」ト又「レオン、ボリユー」氏ハ英、米、獨、普等諸國ノ實例ヲ示シ且論シテ曰ク「巨大ナル收入家ハ稀有ナルヲ以テ其收入總額ヲ合算スルモ之ヲ全國民ノ收入總額ニ比スレハ僅々タル一部分ニ過キルカ故ニ全國民ノ收入總額ニ付キ低キ税率ヲ課スルハ却テ一部分ニ高キ税率ヲ課スルヨリモ其得ル所多カルヘシト」

又今日甚タ危險ナルヘシト思ハル、一說ヲ唱フル者アリ即チ「租税ナルモノハ國家ノ財政上ノ用ヲ充タヌヲ以テ目的トスル外ニ尙ホ國民間ニ財産分配ノ有様ヲ改良スル所ノ目的ヲ有セリ而シテ其第二ノ從タル目的ハ累進法ニ依ルニアラサレハ得テ達スヘカラサルナリ」ト云フニ在リ獨逸建國ノ英主「フレデリク」大王曾テ揚言シテ曰ク「租税ノ目的トスル所ハ國家ノ防禦官吏ノ俸給等ニ充ツルノミナラス富者ト負債者トノ間ノ權衡ヲ復スルニ在リ」ト實際ニ於テ此目的ヲ以テ租税ヲ課シタルコトハ未タ會テ之アラサルナリ「ワグネル」氏モ亦曰ク「租税ト云フ觀念ノ中ニハ財政上ノ目的ノ外ニ國民ノ收入分配ノ方法ヲ改良スヘキ政治上及ヒ社會上ノ目的アリ」ト又曰ク「租税ノ國家國民時期既ニ去リテ社會的時期今ヤ來レリ」ト

更ニ一方ヲ顧ミレハ累進法ニ反對シテ熱心ニ之ヲ論駁スル者アリ其說ニ曰ク「累進法ヲ貫徹スルトキハ遂ニハ巨大ナル收入ニ對シテハ其金額ヲ擧ケテ之ヲ徵收スルニ至ル可シ」ト此極端說ハ頗ル淺薄ナル思想ニ出テタルモノニシテ「ヨリフ」
「ット」氏等此說ヲ採レリ其說ニ曰ク「例ヘハ一千マルク」ノ收入ニ對シテ一分ヲ課

シ二千「マルク」ニハ二分三千「マルク」ニハ三分ヲ課シ漸次累進セハ百萬「マルク」ニハ百分ノ百ヲ課セルサ可カラサル割合ニシテ即チ其總收入ヲ舉ケテ徵收セサルヘカラス「ト然レトモ此攻撃ニ答フルハ頗ル容易ニシテ例ヘハ我國ノ所得稅ノ如ク漸次累進スルト同時ニ漸次其累進ノ割合ヲ減殺シ或極點ヲ一定シテ以上累進ノ法ヲ用非サルカ若クハ二千「マルク」ノ收入ニ對シ第一ノ一千「マルク」ニハ一分ヲ課シ第二ノ一千「マルク」ニハ二分ヲ課スルカ如クニ漸次其割合ヲ累進スルトキハ其收入ヲ舉テ徵收スルニ至ルカ如キ憂アルコトナク其稅率ノ定方如何ニ因リテ右ノ如キ攻撃ヲ避クルコト難カラサルナリ

「ミル氏」モ亦累進稅攻撃論者ノ一人ナリ其言ニ曰ク「累進稅ハ特別ノ勉勵特別ノ節約ニ罰金ヲ科スルモノナリト謂フモ不可ナレト」同氏經濟原論「ベルギア」氏「ハミル」氏ト其說ヲ同シウス曰ク「自ラ得タル財產ノ課稅ニ累進法ヲ以テスルハ罰金ト異ナラス然レトモ相續ニ因リテ得タル財產ニハ此攻撃ノ論鋒ヲ向フルトヲ得サルナリ」同氏財政原論第二百九十九頁此等ノ攻撃ハ累進稅ノ爲ニ順ミルニ足ラスト雖モ累進法ニハ一大缺點ノ存スルモノアリ即チ一般ニ公平正

當ナリト認メラルヘキ累進ノ度ヲ發見スルノ困難ナルコト是ナリ其累進ノ度如何ハ立法者ノ隨意ニ放任スヘキモノナルヤ否ヤ學者ノ論スルカ如キ理想的國家ナルモノハ實際決シテ存スルコトナキヲ以テ之ヲ立法者ノ隨意ナル規定ニ放任スルハ甚タ危險ナリトス若シ其國家ニ於テ貴族の要素カ十分ナル勢力ヲ有シ法律ヲ以テ殆ト富豪ノ財產ヲ盜奪スルカ如キ稅率ヲ立ツルコトヲ防禦スルコトヲ得ハ以テ其害毒ヲ免レ得ヘシト雖モ若シ否ラヌンハ累進法ノ爲ニ非常ナル害毒ヲ流スニ至ルヘシ「チール」氏曾テ曰ク「比例ハ天則ナリ之ニ反シテ累進ハ惡ム可キ專制ナリ」ト蓋シ腐敗セル共和國ニ於テハ國民多數ノ意思ハ即チ法律ナルヲ以テ若シ健全ナル中等社會ノ人民減シ去リタル後ニ於テハ所謂國民ノ多數ハ即チ貧民ノ多數ニシテ貧民ノ意思ハ常ニ法律ト爲リテ富豪ヲ壓抑ス可ク且奸雄之カ煽動者ト爲リ貧民ニ囑着シテ曰ク人民ハ即チ主權者ナリ國家ハ此主權者タル衆民ノ財產ナリ富者ハ無權ナル我敵ナリト即チ籠絡百方害毒至ラサルナシ是レ共和國ニ於テ累進稅ヲ採用スルノ危險ナル所以ニシテ佛國革命時代ノ共和的精神ヲ知ル者ノ皆慨歎スル所ナリ蓋シ當時累進稅法ヲ

定ムル爲ニ集會シタル國民議會ノ代議士ハ白晝ノ盜賊ニアラサルカヲ疑ハシメタル程ナリシカ故ニ現今佛國ノ稅法ヲ觀ルニ累進の性質ヲ有スルモノ頗ル多キニ拘ハラズ其財政學者ハ多クハ累進稅ヲ非難セリ「ウロスキ」氏曰ク「累進稅ハ破壞的ノモノナリ」國の「モノナリ」ト「チール」氏モ亦曰ク「累進稅ハ所有權ニ加ヘタル亂暴ナル侵害ナリ」ト其他「ミラボウ」氏ノ如キ「ポリュー」氏ノ如キ皆之ヲ攻撃シテ止マサルモノ蓋シ偶然ニアラス是其共和政體ノ健全ナラサルヨリ之ヲ濫用シテ其弊ヲ極メタル「反照」ニ非スシテ何ソヤ利器モ之ヲ濫用スレハ其害ヤ甚タシ豈戒メサル可ケンヤ

是ニ依リテ之ヲ觀レハ佛國ノ財政學者カ過激ノ說ヲ主張スルハ其事情ニ於テ想スヘキモノアリト雖モ他國ノ學者ニシテ同様ノ奇論ヲ唱フルニ至リテハ怨スヘラサルナリ「グナイスト」氏ノ如キ深ク其理ヲ察セス安ニ之ヲ非難シテ曰ク「累進稅ハ直接稅全體ノ腐敗ヨリ生シタルモノナリ事ノ正當如何ヲ問フニ「蹂躪」スルモノナリ一旦此制ヲ採用シテ害毒ヲ下等社會ニ流シタル後ハ「後」再ヒ直接稅全體ノ改良ハ得テ置ムヘカラスト又「ヘルマン」氏等皆之ヲ攻撃セリ

レメタル上更ニ破産手續ノ終了ヲ決定ス又全ク異議ナカリシトキハ直チニ其終局ヲ決定シ以テ其旨ノ公告ヲ爲サ、ルヘカラスト

破産手續終結後ハ債權者間ノ連結消滅スルヲ以テ財團ヨリ辨濟ヲ受クル能ハサリシ債權者ハ各自ニ債務者ニ對シテ其債權ヲ請求スルヲ得ヘシ而シテ該債權者ハ債權ノ調査會ニ於テ一度其債權ヲ確定シタルモノナレハ別ニ新ナル訴ヲ起スコトヲ要セス調査會ニ於テ確定シタル權利名義ニ基キ破産者ニ對シ無限ニ強制執行ノ方法ニ依リ之ヲ求ムルヲ得ヘレ

第十章 有罪破産

破産ヲ大別シテ尋常破産及ヒ有罪破産ノ二トス破産ノ原因ハ種々アリテ或ハ不慮ノ災害ニ原因スルコトアリ或ハ之ニ反シテ自己ノ不品行不注意若クハ重大ノ過失及ヒ詐欺ニ原因スルコトアリ其不慮ノ災害ニ原因スルモノヲ尋常破産トシ其否ラスルモノヲ有罪破産トス故ニ尋常破産ハ恰モ不注意ノ責ムヘキモノナク又意思ノ惡ムヘキモノナク其情實ニ憐ムヘキモノアレハ他ノ場合ノ如ク之ニ刑事上ノ制裁ヲ加フルコトヲ爲サズ單ニ民事上ノ制裁ヲ受クルニ止

ヲタリ而シテ他ノ場合ニハ之ニ反シテ自己ノ不注意不品行若クハ詐欺等ニ基クモノナレハ之ヲ嚴重ニ取締ラサルヘカラス此場合ヲ別テ左ノ三種トス

一 詐欺破産

二 過怠破産

三 破産處分ノ場合ニ於ケル破産以外ノ犯罪

此等ハ素ト刑事ノ處分ニ屬スト雖モ刑事裁判所ハ破産裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルモノニアラサレハ此等ニ刑ヲ科スル能ハサルナリ抑モ現行刑法ニ於テハ家資分産ニ關スル犯罪ヲ罰スルノ條文ヲ存スルモ有罪破産ノ刑ハ刑法中ニ規定ナキヲ以テ立法者ハ明治二十三年十月廿日法律第百一號ヲ以テ此場合ニ適用スヘキ規定ヲ設ケ商法ト共ニ之ヲ施行スヘキモノトセリ

第一 詐欺破産

詐欺破産ニ關シテ第五十條ノ法文アリ而シテ詐欺破産ニハ必ス破産者ニ於テ債權者ノ權利ヲ害スルノ意思アルヲ要ス若シ此意思即チ惡意ナキトキハ詐欺破産ノ罪ヲ構成スル能ハス而シテ法律ハ左ノ四ケノ場合ニハ此意思アルモ

ノト認メ詐欺破産ノ刑ヲ科スヘキモノトセリ

一 履行スル意思ナキトキ又ハ履行スル能ハサル義務ヲ負擔セルトキ

此場合ハ始ヨリ履行スルノ目的ニアラスシテ債務ヲ負擔シ或ハ履行スルコト能ハサルヲ知リツ、債務ヲ負擔スルモノナリト雖モ此等ノ事タル全ク事實ノ問題ニ屬シ裁判官ノ認定ニ從フモノナリ放外ノ高利ヲ支拂フコトヲ約シテ公衆ヲ誘ヒ以テ多額ノ金員ヲ募リ或ハ逃走シ或ハ名義主ヲ代ヘ其債務ヲ免レント計リ或ハ掛ニテ買受クヘキ約束ヲ爲シ高價ニテ之ヲ買入レ直チニ廉價ニテ之ヲ賣拂ヘタルトキハ詐欺ノ目的ニ出テタルモノト認ムヘキナリ

二 債權者ニ損害ヲ加フルノ意思ヲ以テ貸方財産ノ全部若クハ一部ヲ藏匿シ轉賣シ脱漏シタルトキ

此場合ニハ假令財産藏匿ノ所爲アリト雖モ債務者ニ損害ヲ被ラシムル意思ナキ以上ハ詐欺破産ヲ構成スルモノニアラサルナリ

三 借方現額ヲ過度ニ掲ケ債權者ニ損害ヲ被ラシメンコトヲ計リタルコト

四 債權者ニ損害ヲ被ラシムル意思ヲ以テ商業帳簿ヲ毀滅藏匿若クハ偽造
變造シタルトキ

第二 過意破産

過意破産ハ過意ニ出ラタル所爲ナレハ元ヨリ惡意ヲ要スヘキニアラスシテ只
過失アレハ充分ナリトス此場合ハ貳年以上四年以下ノ重禁錮ニ處セラレヘシ
第一千〇五十一條ニ曰ク

破産宣告ヲ受ケタル債務者カ支拂停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ問ハス左ニ掲
クル行爲ヲ爲シタルトキハ過意破産ノ刑ニ處ス

第一 一身又ハ一家ノ過分ナル費用博奕空取引又ハ不相應ノ射利ニ因リテ
貸方財産ヲ甚シク減少シ若クハ過分ノ債務ヲ負トタルトキ

第二 支拂停止ヲ延ハサンカ爲メ損失ヲ生スル取引ヲ爲シテ支拂資料ヲ調
ヘタルトキ

第三 支拂停止ヲ爲シタル後支拂又ハ擔保ヲ爲シテ或ル債務者ニ利ヲ與ヘ
財團ニ損害ヲ加ヘタルトキ

第四 商業帳簿ヲ秩序ナク記載シ藏匿シ毀滅シ又ハ全ク記載セザルトキ

第五 破産者カ第三十二條第九百七十九條又ハ第一千三條第二項ニ規定シタ
ル義務ヲ履行セザルトキ

第三 破産處分ノ場合ニ於ケル破産以外ノ犯罪

破産處分ノ場合ニ於ケル第三者ノ犯罪ハ破産ニハ少シモ直接ノ關係ヲ有セザ
ルモノナルモ或ハ債權者集會ニ於テ議決ヲ左右センカ爲メ賄賂ヲ受授シタル
モノ或ハ破産者ヲ補助シテ犯罪行爲ヲ容易ナラシメタルモノニ對シタル犯罪
ニシテ債權者集會ニ於テ議決ヲ左右スルモノニ關スル規定ハ第一千五十三條ニ
アリ曰ク

債權者集會ニ於ケル議決ニ關シ債權者ニ賄賂ヲ爲シタルトキハ其雙方ヲ二
年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

此場合ハ他債權者ヲ害スル爲メ不當ニ財物ヲ得タルモノナレハ之ヲ罰スヘキ
ハ當然ナリ破産者ヲ補助シ其利益ノ爲メ事ヲ行ヘタルモノニ關スル條文ハ第
千五十三條ニアリ曰ク

前二條ノ罰則ハ會社ノ業務擔當ノ任アル社員若クハ取締役及ヒ清算人ニモ之ヲ適用シ又第五十條ノ罰則ハ破産管財人及ヒ有罪行為ヲ行フ際犯者ヲ助ケ又ハ有罪行為ヲ破産者ノ利益ノ爲ニ行ヒタルモノニモ之ヲ適用ス
 ストアリ會社ハ無形人ナレハ事ヲ行フニハ必ス其代理人ニヨリ之ヲ爲サルヘカラス隨テ有罪破産ノ刑罰ヲ受クヘキモノモ亦代表者タラサルヘカラス其代表者ハ合名會社合資會社ニ在リテハ業務擔當人株式會社ニアリテハ取締役會社解散後ハ清算人ナリトス又有罪行為ヲ自ラ爲セシニアラサルモ犯罪ヲ爲スモノヲ助ケ或ハ債務者ノ爲メニ惡事ヲ爲セシモノハ刑法ノ所謂共犯從犯トモ稱スヘキモノナレハ其モノニ對シテ犯罪者ト同一ノ制裁ヲ加フルハ至當ナリ未遂減刑等ハ刑法ノ規定ニ依ル

第十一章 復權

第一節 復權ノ性質

破産ハ公權私權ヲ剝奪スト雖モ法律ハ之カ回復ノ制度ヲ設ケ破産者ヲシテ其債務ヲ辨濟シ汚名ヲ雪カシムルコトヲ奨勵ス所謂復權是ナリ破産者ハ復權ニ

依リ破産ノ爲メ失ヒタル權利ノ全部ヲ回復ス換言セハ復權ヲ得タルモノハ公權ノ執行ヲ回復シ又ハ取引所ニ立入り仲立人會社ノ重役破産管財人等商事代人ノ職務ヲ執ルコト商業會議所ノ會員其他商業上ノ榮譽職ニ就クコトヲ得ヘシ(第五十四條)

然シテ復權ハ如何ニシテ之ヲ得ヘキヤト云フニガハ第五十五條ノ規定スル所ナリ即チ破産者カ現利金費用ノ金額ヲ債權者總員ニ辨濟シタルカ債權者ノ所在不知ノ爲メ未タ辨濟スル能ハサル債權者ノ爲ニ其債權ノ金額ヲ辨濟スル準備及ヒ賣力アルコトヲ證明ス可シ尤モ協賛契約ナルモノハ破産手續ヲ迅速ニ完結セレメシカ爲ニ設ケタルモノニ過キサレハ其契約ニ依リテ假令破産者ハ義務ノ幾分ヲ免カレタリトスルモ之レ單ニ破産手續上ノ義務ヲ免レタルニ過キサレハ破産手續ノ結了シ債權者ノ連結ノ解ケタル後ニ於テハ債權者カ各自獨立シテ自己ノ債權殘額ヲ請求スルハ差支アルコトナシ是レ恰モ破産宣告ニ依リテ利子ノ生加ヲ停止スルモ破産手續結了後ハ其請求ヲ爲スノ妨ケトナラサルト一般ナリ若會社カ破産スル場合ニハ其無限責任社員カ假令自己ノ爲

マ協賛契約承諾セラレタリト雖モ會社ノ負債ヲ辨濟シタルコトヲ説明シタル後ニアラサレハ其復權ヲ得サルナリ此ノ如ク協賛契約ハ未タ以テ復權ヲ得ルノ方法タラスト雖モ其契約ノ目的ヲ達セン爲メ取引所ニ立入り又ハ商事會社ノ營業ヲ續行シ得ルハ論ヲ俟タサル所タリ(第一〇五五條第三項)然レトモ明治二十六年法律第五號取引所法第十一條ニハ復權ヲ得タル破産者ハ取引所ノ會員タルヲ得ストアリテ商法ト相抵觸スルカ如シト雖モ是レ全ク一般ノ場合ヲ想像シタルモノニシテ協賛契約ノ場合ヲ想像シタルモノニアラス協賛契約ノ場合ハ特別ノ場合ナレハ本法ニ依ルヘキモノナリトス抑モ破産者カ費用及ヒ現利金ヲ辨濟シタルトキハ復權ヲ爲シ得ヘシト雖モ其義務辨濟ハ必スシモ現物ヲ以テ爲スヲ要セス例ヘハ代位辨濟相糞混同ニテモ尙ホ辨濟トシテ論スルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ然レトモ任意上ノ義務免除即チ和解ノ如キハ事實上ノ辨濟ニアラサルヲ以テ或ハ之ニ依リ復權ヲ得ヘキモノニアラスト論スルモノアリ其理由トスル所ハ復權ハ債務者悉ク其義務ヲ履行シ信用ヲ害シタル汚名ヲ除キタル後ニアラサレハ之ヲ受タヘキニアラス故

ニ和解ヲ爲シテ辨濟セサルカ如キハ榮譽ヲ回復スヘキモノニアラス元來茲ニ主眼トスル所ノモノハ債務者カ復權者ヨリ訴訟上要求セラル、ヤ否ヤヲ問フニアラスシテ商人タル信用ヲ回復シタルヤ否ヤヲ問フニアリ換言スレハ債務者復權者ノ私事ノ關係ヲ問フニアラスシテ公然タル法律上ノ能力ニ關スルモノナリ故ニ人民間ノ約束ヲ以テ左右シ得ヘキモノニアラスト云フニアリ此說ハ一理由アルモノ、如キモ甚タ過當ノ論ト云フヘシ元ヨリ義務ノ免除ハ義務ノ履行ニアラスト雖モ免除ノ結果ハ履行ノ結果ニ異ナラス予ハ此二者ヲ以テ法律上同一ナリト信ス況ンヤ復權者ハ義務ヲ免除スルノ權アリテ其免除シタル義務ヲ履行セサレハトテ債務者ノ榮譽上ニ何等ノ關係ヲ有セサルノミナラス債務者ハ復權者ノ受取ラサルモノヲ強テ受取ラシメ辨濟スルコト能ハサルコトアルニ於テオヤ然レトモ此ノ問題ハ學者ノ皆ナ喋々スル處ナリト雖モ實際ハ緊要ナルモノニアラス若シ復權者カ破産者ノ復權ヲ妨タルコトナクシテ債務ヲ免除セント欲セハ復權全部ノ辨濟ヲ證スル受取證ヲ交附スヘケレハナ

破産者其債務ノ全部ヲ辨濟シタリト雖モ之カ爲メ當然復權ヲ得ルモノニアラス即チ復權ハ裁判所ニ於テ之ヲ附與セラルヘキモノナリ破産者ニシテ其債務ヲ辨濟シタルトキハ詐欺破産若クハ過怠破産ノ刑ニ處セラレ若クハ重罪輕罪ノ爲メ公權ノ剝奪又ハ停止中ニアラサルモノナルトキハ裁判所ハ復權ヲ與ヘサルヲ得ス第五十八條ニ曰ク

復權ハ詐欺破産ノ爲ニ判決ヲ受ケタル破産者又ハ重罪輕罪ノ爲ニ剝奪公權若クハ停止公權ヲ受ケテ其時間中ニ在ル破産者ニハ之ヲ許サス

過怠破産ノ場合ニ在テハ復權ハ刑ノ滿期ト爲リ又ハ恩赦ヲ得タルモノニアラサレハ之ヲ許サス

トアリ之ヲ要スルニ復權ヲ得ルニハ破産者カ義務ノ全部ヲ辨濟シ且ツ犯罪者タラサルヲ要ス然レテ之ヲ得ルニ破産者ノ生存中ヲ必要トセス死亡後ト雖モ之ヲ得ヘシ第五十七條ニ曰ク

復權ハ債務者ノ死亡後ト雖モ之ヲ許ス

トアリ此規定ハ子女ヲシテ先代ノ被リタル汚名ヲ雪カシメントヲ獎勵シ美

徳ヲ養成セントノ精神ニ出テタルモノナリ然レトモ或學者此條ヲ非難スルモノアリ曰ク死シタルモノハ人ニアラス隨テ權利ノ主體トナルヘキニアラス然ルニ死者ニ復權ヲ許可シ或種ノ權利ヲ得セシメントスルハ不可思議ト云ハサルヘカラス元來復權ハ公權私權ノ回復ヲ得テ商事會社ノ重役トナリ取引所ノ會員トナレカ如キ其他商業上ノ名譽職ニ就クコトヲ得ヘキコトナルニ死者ハ復權ヲ得ルモ何等ノ効力ナシ實ニ理由ナキ規定ニアラスヤト此說一理ナキニアラスト雖モ人ノ子女タルモノ其先代ノ汚名ヲ蒙リタルコトヲ自ら快ク感セス世間ニ對シ酷ク不面目ニシテ隨テ先代ノ蒙リタル耻辱ハ延テ子孫ニ及フノ結果アリ故ニ子孫カ其汚名ヲ雪カントスルハ又自己ノ利益ノ爲タルニ過キス故ニ子孫ヲシテ其中心ヲ快ラシメントスレハ先代ノ負債ヲ支拂ヒ以テ復權ヲ得ルノ制度ヲ設ケタルニ若カサルナリ

第二節 復權ノ手續

復權ハ當然之ヲ行フヘキモノニアラサルヘキハ前文ニ説明セル如シ即チ之ヲ行フニ就テハ破産者ノ住所ヲ管轄スル地方裁判所ニ於テ之ヲ受ケサルヘカラ

ス而シテ復権ノ申立ヲ爲スニ付テハ義務ノ辨濟ヲ爲シタルコトヲ明ニセンカ
爲メ其申立書ニ全額ノ受取證書及ヒ其他ノ證明書ヲ添フヘシ(第一千五百五條第
二項)

然シテ復権ノ申立ヲ爲シ得ル者ハ通常破産者ナレトモ其死後ニアリテハ相續
人及ヒ親戚ニ於テ之ヲ爲サハルヘカラス復権ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ異
議アルモノヲシテ二ヶ月間ニ異議ヲ起サシメンカ爲ニ裁判所ノ揭示場ト取引所
トニ其旨ヲ揭示シ且裁判所ノ見込ニ依リ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告シ又調査及ヒ
搜查ヲ爲サシメンカ爲ニ檢事ニ通知スヘキナリ第一〇五六條第一項是レ蓋シ
復権ヲ得セシムルニハ破産者ノ潔白ニシテ瑕瑾ナキヲ要スルナリ而シテ裁判
所カ右復権ニ對シ決定ヲ爲スニハ檢事ノ意見ヲ聞キ之ヲ爲ス檢事ノ意見ヲ聞
クハ檢事ハ破産者カ詐欺破産又ハ過怠破産ニ處セラレタルヤ否ヤヲ調査シ居
ルモノナレハナリ此決定ニ對シテ即時抗告ヲ爲スヲ得確定シタル決定ハ之ヲ
公告セサルヘカラス第一〇五六條第二項而シテ其抗告ヲ爲シ得ヘキモノハ單
ニ檢事ト破産者ノミニシテ異議申立人ハ此權ヲ有セス之ニ反シテ異議申立人

ル全獨逸ハ統一シタル帝國トナリタルカ故ニ其時ヨリシテ聯邦法律タリシ商
法ハ轉シテ帝國法律トナリシナリ

之ト同時ニ商法ノ解釋及ヒ適用ヲ司ル爲メニ「ライプツァヒ」ニ高等商事裁判所ヲ
置キ商事ニ關スル最上告審トセリ然ルニ千八百七十七年一月二十七日ノ裁判
所構成法ニ依リ該裁判所ヲ廢シテ其權限ヲ帝國裁判所ニ歸セシメタリ

普通商法典編纂アリテ以來聯邦法律又ハ帝國法律ヲ以テ之ニ對スル修正若ク
ハ特別法律ヲ發布シタルモノ少ナカラス今左ニ其海商ニ關スルモノヲ列舉セ
ンニ

(イ)千八百六十七年十月二十五日商船ノ國籍及ヒ聯邦族ノ掲揚權ニ關スル法律
并ニ同日商船ノ聯邦旗ニ關スル聯邦會議長ノ命令ノ發布アリ此法律ニ依リ商
法典第四百三十二條乃至第四百三十八條ヲ變更セリ

(ロ)千八百六十七年十一月八日聯邦領事組織ニ關スル法律 此中ノ多クノ規定
ハ海商ニ關係セリ(以上聯邦法律)

(ハ)千八百七十二年十二月二十七日海員ニ關スル法律、此法律中ニハ商法ノ如

ク獨リ私法的規定ノミナラス公法的規定ヲモ包含セシメタリ而シテ此法律ニ
 ヨリ商法中第五編第四章海員ノ規定第五百二十八條乃至第五百五十六條ヲ廢
 止シ之ニ代リテ施行セシメタリ
 (ニ)千八百七十二年十二月二十七日救助ノ必要アル海員ヲ携帶スヘキ獨逸商船
 ノ義務ニ關スル法律是レ前項ノ法律ノ附屬タリ
 (ホ)千八百七十三年六月二十八日商船ノ登記及ヒ命名ニ關スル法律千八百八十
 五年四月十五日同法律千八百八十八年十二月二十三日同法律此等ノ法律ニヨ
 リ千八百六十七年十月二十五日ノ法律ヲ廢止若クハ變更シタリ
 (ヘ)千八百七十四年五月十七日坐礁ニ關スル法律
 (ト)千八百七十六年八月十四日海上及ヒ沿岸水上ニ於ケル救助信號及ヒ水先案
 內信號條例千八百七十六年八月十五日海上ニ於ケル船舶衝突後船舶ノ防禦ニ
 關スル條例 千八百八十年一月七日海上ニ於ケル船舶衝突豫防ニ關スル條例
 (此條例第十條ハ千八百八十一年二月十六日ノ命令ヲ以テ之ヲ變更セリ此等ノ
 條例ハ後ニ千八百八十九年七月二十九日ノ命令ニ依リ之ヲ補充サレタリ而シ

テ本項ニ謂フ所ノ條例トハ法律ニアラスシテ總テ命令ナリトス
 (ナ)千八百七十七年七月二十七日海難検査ニ關スル法律
 (リ)千八百八十年三月二十五日帝國領事ノ船舶報告ニ關スル法律并ニ同年七月
 二十八日ノ同施行條例
 (ヌ)千八百八十一年五月二十二日沿岸航海ニ關スル法律并ニ獨逸國沿岸ニ於ケ
 ル外國船舶航行ノ權利ニ關スル命令
 (ル)千八百八十七年七月十三日海員其他ノ航海ニ從事スル人ノ事變保險ニ關ス
 ル法律之ニ依リテ以テ保險ノ範圍ヲ高海漁業蒸氣船并ニ鱈漁業船ノ船員ノ上
 ニ擴メタリ
 (ヲ)徵兵保險并ニ養老保險ニ關スル法律ハ船員ニモ亦適用セラレ
 (ワ)帝國營業條例第三十一條第三十四條第四十條及ヒ第五十三條ハ船長運轉士
 及ヒ水先人ノ資格ニ關スル規定ヲ設ケタリ而シテ此法律ニ基キテ千八百八十
 七年八月六日船長及ヒ運轉士試驗規則此規則ハ後ニ千八百九十一年六月十一
 日及ヒ千八百九十五年三月四日ノ兩度ノ命令ヲ以テ之ヲ補充セリ千八百九十

一年六月二十六日機關士試驗規則ヲ發布セリ

(カ)千八百八十八年六月二十日船舶測度規則

該規則ハ此後千八百九十五年三月一日ノ新規則及ヒ千八百九十五年三月三十

日「スエヌ」運河航船測度規則ニ依リテ改正サレタリ

(コ)千八百九十一年三月二十二日千八百九十二年十二月十四日及ヒ千八百九十

五年七月二十七日ノ命令ニ依リ商法典千八百六十九年六月五日同施行條例帝

國旗掲揚ニ關スル法律商船ノ登記并ニ命名ニ關スル法律坐礁條例及ヒ海難檢

査規則等ヲ「ヘルゴランド」施行スルコトヲ定メタリ

(ク)千八百九十二年十一月八日帝國旗掲揚ニ關スル命令

(レ)千九百年一月一日ヨリ民法ヲ施行スルカ故ニ其中ニ新ニ設ケラレタル船舶

抵當權ニ關スル規定民法第二百五十九條乃至千二百七十一條ハ登記サレタ

ル船舶ニ適用サル、ニ至ルヘク又之ト同時ニ船舶競賣ニ關スル規定(不動産競

賣法ノ一部トシテ規定セリ)モ亦施行サル、ニ至ルヘキナリ

右ノ如ク普通商法典ノ實施以來種々ノ特別法令ヲ發シテ以テ時勢ノ進歩ニ應

シ來リシカ千八百七十四年以來委員ヲ設ケテ編纂ニ從事セシメタル獨逸帝國
民法典ハ第三讀會ヲ通過シテ千八百九十六年八月十八日ヲ以テ其施行條例ト
共ニ發布セラレタリ然ルニ普通商法典編纂ノ當時ニハ右ノ如キ統一の民法ナ
ク各州區々ノ民事規定行ハレタリシカハ自ラ商法中ニ商行爲ニ特別ナル規定
ノミナラス一般ノ民事規定ヲモ包含セシムルノ已ムヲ得サルモノアリシナリ
然ルニ統一の帝國民法ノ完成アルニ至リテハ之ト相調和スル所ノ商法典ノ編
纂ヲ必要トスルヤ固ヨリ言フ埃タス是ニ於テカ普通商法典ヲ修正シテ千八百
九十七年五月十日ヲ以テ施行條例ト共ニ獨逸帝國新商法典ヲ發布セリ而シテ
其施行期日ハ同施行條例第一條ニ依ルニ民法ノ施行期日ト同一ニシテ來ル千
九百年一月一日ナリトス

今現行法タル普通商法典ト新商法典トニ付キ海商篇ノ規定ノ項目ヲ對比セシ
ニ新商法典ハ匿名組合ノ規定ヲ第二篇中ニ合併セシカ故ニ其結果トシテ海商
ハ第四篇トナレリ

新商法典

第五篇 海商(第四三條乃至第九二條) 第四篇 海商(第四七四條乃至九〇五條)

第一章 總則(第四三二條乃至第四四九條) 第一章 總則(第四七四條乃至第四八三條)

第二章 船舶所有者及船舶共有 第二章 船舶所有者及船舶共有
者(第四五〇條乃至第四七七條) 者(第四八四條乃至第五一〇條)

第三章 船長(第四七八條乃至第五二七條) 第三章 船長(第五一一條乃至第五五五條)

第四章 海員(第五二八條乃至第五五六條) 第四章 海員(第五五七條乃至第五九二條)

第五章 物品運送(第五五七條乃至第六四四條) 第五章 物品運送(第五五六條乃至第六三三條)

第六章 旅客運送(第六四五條乃至第六七九條) 第六章 旅客運送(第六六四條乃至第六八七條)

第七章 冒險貸借(第六八〇條乃至第七〇一條) 第七章 冒險貸借(第六七九條乃至第六九九條)

第八章 海損 第七章 海損

第一節 共同海損及特別海損 第一節 共同海損及特別海損

(第七〇二條乃至第七三五條) (第七〇條乃至第七三三條)

第二節 船舶衝突ニ因ル損害 第二節 船舶衝突ニ因ル損害

(第七三六條乃至第七四一條) (第七三四條乃至第七三九條)

第九章 海難ニ於ケル救援救助 第八章 海難ニ於ケル救援救助

(第七四二條乃至第七五六條) (第七四〇條乃至第七五三條)

第十章 船舶債權者 第九章 船舶債權者

(第七五七條乃至第七八一條) (第七五一條乃至第七七七條)

第十一章 航海ノ危険ニ對スル保險 第十章 航海ノ危険ニ對スル保險

第一節 總則(第七八二條乃至第八〇九條) 第一節 總則(第七七八條乃至第八〇五條)

第二節 契約取結ノトキニ於ケル 第二節 契約取結ノトキニ於ケル

告知(第八一〇條乃至第八一五條) 告知(第八〇六條乃至第八一二條)

第三節 保險契約ヨリ生スル被保險 第三節 保險契約ヨリ生スル被保險

者ノ義務(第八一六條乃至第八二三條) 者ノ義務(第八一二條乃至第八一九條)

第四節 危険ノ範圍 第四節 危険ノ範圍

(第八二四條乃至第八五七條) (第八二〇條乃至第八五三條)

第五節 損害ノ範圍 第五節 損害ノ範圍

(第八五八條乃至第八八五條) (第八五四條乃至第八八一條)

第六節 損害ノ支拂

(第八八六條乃至第八九八條)

第六節 損害ノ支拂

(第八八二條乃至第八九三條)

第七節 保險ノ解除及ヒ保險料 第七節 保險ノ解除及ヒ保險料

ノ拂戻(第八九九條乃至第九〇五條) ノ拂戻(第八九四條乃至第九〇〇條)

第十二章 時効(第九〇六條乃至第九一三條) 第十一章 時効(第九〇一條乃至第九〇五條)

右ノ表ニ依ルニ新商法中海商篇ハ甚シキ修正ヲ爲サ、リシコトヲ知ルニ足ルヘシ唯現行法中海員ニ關スル規定ヲ全ク特別法ニ讓リタルト現行法ノ第一章總則ノ規定中第四百三十二條乃至第四百三十八條ノ七個條ヲ廢止シタルトニ依リテ新商法ハ前三篇ノ規定ニ於テ四十二個條ヲ増加シタルニ拘ハラズ海商篇ニ於テハ大ニ其條數ヲ削減セタルヲ見ルヘシ。

獨逸海商法ニ關スル著書ニシテ吾人ノ熟知スル著名ナルモノヲ列舉スレハ註釋書トシテハ「レウイス」氏獨逸海法論「ボーエンス」氏獨逸海法論「グオルグ、シヤウイス」氏ノ著ヲ修正シタルモノ「マローウエル」氏獨逸普通商法論「グオルグ、シヤウイス」氏獨逸新海法論「フォイグト」氏獨逸海上保險論等アリ理論的著書トシテ

ハ「ツグナル」氏獨逸海法論「エンデマン」氏獨逸商法論第四卷「ヘック」氏共同海損論「エーレンバルヒ」氏有限責任論「ハイゼ」氏及ヒ「クローツ」氏法律講義等ナリトス

第三 英國

英國ニテハ元來吾人カ今日民法商法ト區別スルカ如キ嚴格ナル二者ノ限界ナク今日ト雖モ尙ホ然リ唯學者カ往々ニシテ「レウクス、マルカトリア」「コム、マーシアル、ロー」「マーカンチル、ロー」「何レモ商法ノ義又ハ「ロー、マーチャント」(商人法ノ義)等ノ語ヲ用非ルコトアリト雖モ是皆一家ノ私見ニ止リ法律語トシテ民法ニ對スル商法ナルモノアルコトナシ民事商事ノ規定ハ共ニ「コンモン、ロー」ト稱スル普通法ノ下ニ發達セ原則トシテハ總テ皆不文ノ慣習法ニテ存在セ唯時勢ノ必要上已ムコトヲ得スシテ單行ノ成文法律ヲ發スルノミ然レトモ其單行法律ハ現時頗ル許多アリ今其商事ニ關係スル主ナルモノヲ掲タレハ千八百六十二年及ヒ千八百六十七年會社法千八百八十二年ノ手形法千八百八十三年破産法千八百九十三年動産買買法千八百九十年組合法千八百九十四年商船法等ナリト

英國ニ於テ何カ故ニ民法商法ノ區別ヲ立テサルカ是レ英國人カ極メテ保守的ノ思想ニ富ミ急激ナル法律改革ヲ忌ミ各國競フテ日進月歩ノ法制ヲ採用シ後進ノ我國ニテスラ既ニ大宇法典編纂事業ノ完成シタルトキニ當リ英國ニテハ未タ之ニ着手セサルカ如キ大體ノ思想ニ於テ彼我大ニ其國情ヲ異ニスルカ故ナルヘシト雖モ予ノ見ヲ所ヲ以テスレハ左ノ一事モ亦民法商法不分割ノ一原因ナルヘシト信ス元來私法ヲ分チテ民法商法ノ二ツトナシ二個ノ法典ヲ必要トスルヤ否ヤハ法典編纂ヲ主義トスル國ニアリテモ大ニ議論ノ存スル所ナリ蓋シ民事ト商事ト同一規定ニ從ハシムルノ不可ナルコトハ何人モ之ヲ認ムト雖モ其二法典ヲ必要トスルヤ否ヤハ畢竟便宜問題ニ屬ス凡テ法ハ人ノ爲ニ存スルモノナルカ故ニ若シ一國臣民ニシテ民事規定ニ隨フヘキモノト商事規定ニ隨フヘキモノト相半ハスルカ如キ國情ニアリテハ大ニ二法典ヲ設クルノ必要アルヘシト雖モ一方ニ偏スルモノニアリテハ然ラサルナリ然ルニ英國ニアリテハ世界中商業最モ盛ンニシテ殊ニ海商ニ付テハ自ラ海上ノ王ト誇稱スル

カ如キ有様ナリ隨テ英國ニ於ケル日常ノ取引中恐ラクハ商事規定ニ隨フヘキモノ十中ノ八九ヲ占メテ民事規定ニ隨フヘキモノハ其數益々減少スルカ如キ傾アリ例ヘハ手形ノ如キハ普通ノ人ノ皆使用スル所ナリ故ニ他國ニアリテハ民事規定カ原則法ニシテ商事規定ハ其特別法タルヲ常トスルニ拘ラス英國ニアリテハ商事規定ハ益々慣用サレテ民事規定ハ却テ其特別法トナルノ觀ナキニアラス故ニ先キニ列舉シタル如ク今日英國ニテ發布セラル、單行成文法ノ主ナルモノハ皆商事規定ニ係レリ殊ニ從前特別裁判所ニ於テ特別法トシテ執行シタル商人ノ法モ普通法ノ中ニ併吞セラレ特別裁判所モ亦普通法裁判所ノ中ニ合併セラレテ其一部トナレリ又民事規定ノ多クハ例ヘハ不動產法ノ如キハ最モ固陋ニシテ少シモ進歩セス反之商事規定ハ日ニ月ニ進歩スルカ故ニ商事規定ハ遂ニ民事規定ヲ壓倒シ民法商法ノ區別モ爲ニ之ヲ設クルノ必要ナキニ至レルナリ要スルニ英國ニ於ケル商業長足ノ進歩ノ結果ハ商事規定ヲ以テ一般法トシ民事規定ヲ以テ却テ其特別法トナシ民商二法他國ニ比スレハ其地位ヲ顛倒スルニ至ルノ觀ナキニアラス是レ稍々誇大ニ過キタル突飛說ナルカ

如キ嫌疑ナキニアラスト雖モ最近ノ傾向ヲ特示スレハ實ニ茲ニ在リトス故ニ姑
 ラク疑ヲ存シツ、此ノ如ク説明スルコト爾リ
 右述フル所ハ形式的商法ノ有無ノ論ナリトス實質的商事規定ニ付テハ比々皆
 是ナリ而シテ之カ發達ノ沿革ヲ述フルニ付テハ學者概テ之ヲ三期ニ分ツヲ常
 トス(一)ストラットン氏商法原理第一章其第一期ハ「アルマン」人ノ征服ニ始マリ千
 六百六年「サー、エドワード、コーク」氏高等判事ノ職ニ就クマテノ間ナリトス此期
 ニ於ケル海商法ニ關スル重要ナル出來事ハ既ニ先キニ述ヘタル如ク本講義五
 四頁參照「リチャード」一世カ「オレロン」海法ヲ制定シタルノ一事ナリ隨テ「オレロ
 ン」海法カ英國商船法ノ淵源ヲ爲スヤ知ルヘキナリ且此期ニ於テ専ラ用非ラレ
 タル海事規定ハ彼ノ所謂海法全集ニシテ其中ニハ右ノ「オレロン」海法ハ勿論ウ
 イスビ「海法」コンスタート法典其他外國ノ海事法規ヲ始ント皆網羅セリ然レ
 トモ是等ノ法規タル未タ英國ノ普通法トナリシニアラスシテ商人等ノ法廷ナ
 ル特別裁判所ニ於テ商人ナル特別階級ノ人々ニ向テ之ヲ適用セシノミ故ニ此
 等法規ノ適用ヲ受ケ其利益ヲ享有セント欲セハ豫メ商人ナルコトヲ證セサル

第三章 商業登記

前章ニ於テ商法ニ謂フ所ノ商人ヲ規定セリ我商法ノ主義ニ隨ヘハ商法ノ適用
 ヲ受クヘキ者ハ必スシモ商人ニ非ス然レトモ普通人ニシテ商行爲ヲ爲ス者ト
 商行爲ヲ營業トスル者トハ同一規定ニ依ラシムルコトヲ得サルモノアリ本章
 以下五章ハ則チ特ニ商人ノ爲ニ必要ナル事項ヲ規定セリ

本章ハ商業登記ヲ規定ス商業登記ハ商人ノ商業上ノ事項ニシテ世間ニ公示ス
 ルコトヲ要スルモノヲ裁判所ニ備フル所ノ帳簿ニ登錄セシムルナリ蓋シ商人
 ニ繼續シテ一般人ト取引スルヲ目的トスル者ナルヲ以テ一般ノ信用ヲ保證ス
 ルニ非スシハ善ク商取引ノ圓滑ヲ圖ルコト能ハス此ニ於テ商業登記ノ制アリ
 然レトモ商人ニハ商業上ノ秘密アリ此秘密ハ各商人ノ商略ノ存スル所ナルヲ
 以テ登記ノ制ヲ設クルモ可成的又此秘密ヲ破ラサルコトヲ要ス故ニ商事會社
 ノ登記事項ニ比スレハ一箇商人ノ登記事項ハ甚少ナシ是一個商人ニ在リテハ
 概シテ商事會社ニ於ケル如ク信用上ノ危險多カラサレハナリ

現行商法第十八條ニハ登記事項ヲ列記シテ商號後見人未成年者婚姻契約代務

及ヒ會社トセリ然レトモ登記事項ハ商法中各其關係條文ニ於テ規定スヘキモノナルヲ以テ本章ニ於テハ單ニ登記ノ手續及ヒ効力ニ關スル規定ヲ設ケタリ

第一節 登記ノ手續

登記事務ハ非訟事件トシテ地方裁判所ニ於テ之ヲ行フ地方裁判所ハ商業登記簿ヲ備ヘ當事者ノ請求ニ依リテ登記ヲ行フ現行法ニテハ商業登記簿ニハ區裁判所ノ主管ニシテ八種アリ商號登記簿後見人登記簿未成年者登記簿婚姻契約登記簿代務登記簿合名會社登記簿合資會社登記簿株式會社登記簿是ナリ明治二十三年十月二十九日司法省令第八號新商法ニ於テハ商會社ニ株式合資組織ヲ認メタルヲ以テ株式合資會社ノ登記簿モ設備セサルヘカラス本年五月十三日發布司法省令第十三號ヲ以テ商業登記取扱手續ヲ定メタリ此手續ニヨリ代務登記簿及ヒ婚姻契約登記簿ヲ改メテ支配人登記簿及ヒ妻登記簿トセリ登記ハ總テ商人ノ營業所々在地ノ裁判所ニ於テ之ヲ行フ本店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ハ法律ニ別段ノ定ナキトキハ支店ノ所在地ニ於テモ亦之ヲ登記セサルヘカラス(商法第九條第一〇條)

登記ノ目的ハ公示ニ在リ故ニ登記簿ハ公衆ニ閱覽ヲ許シ又其謄本抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得セシムルノミナラス登記シタル事項ハ其裁判所ニ於テ運滯ナク之ヲ公告セシム(商法第一〇條)

第二節 登記ノ効力

登記ノ効力ニ關シテニ主義アリ(一)ハ登記ニ因リ法律關係ヲ設定シ又ハ消滅セシムル主義ニシテ獨逸ノ不動産登記現行商法第二百十條株式會社定款變更ノ登記ノ如キ是ナリ(二)ハ登記ヲ以テ公示方法ト爲ス主義ナリ第一主義ハ第三者ヲ保護スル點ニ於テ甚便利ナルカ如シト雖モ其事理ニ戻リ又實際第三者ノ利害關係ヲ有スル者ナキ場合ニ於テモ常ニ登記ニ因リテノミ法律關係ヲ確定セシトスルモノナリ第二主義ニ隨ヘハ登記ハ單ニ公示方法ニ過キサルヲ以テ法律關係ハ登記以前ニ確定シ登記ハ唯此確定セル法律關係ヲ公示スルノミ本邦登記法ノ主義ハ是ナリ特ニ商業登記ニ付テハ各國此主義ヲ採用セリ此法律關係ヲ公示スル所以ハ第三者ヲ保護センカ爲メナリ已ニ法律カ一定ノ事項ノ第三者ニ公示セラル、必要ヲ認メ登記ノ義務ヲ負ハシメタル以上ハ登記前ニ在

リテハ善意ノ第三者ニ對シテ其法律關係ヲ以テ對抗スルコトヲ得スト規定スル必要アリ

第一 登記ノ効力ハ何時發生スルヤ 登記ヲ以テ公示方法トスル主義ヲ執ルモ法律關係ヲ設定セシムル主義ヲ執ルモ皆第三者ヲ保護セント欲スル主義ニ外ナラス故ニ登記ノ目的ハ公告ニ由リテ始メテ完全ニ達セラルハナリ此ニ於テ法律關係ノ第三者ニ對スル効力ハ登記ノ時期ヨリ發生スルカ又ハ公告ノ日時ニヨリ發生スルト定ムルヲ釋當ナリトスルカ現行商法第二十二條ハ登記事項ハ之ヲ登記シタルトキハ公ニシテ且裁判所ノ認知シタルモノトスト規定セリ乃チ登記シタルトキハ公告前ト雖モ其法律關係ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルナリ然レトモ已ニ第三者ヲ保護スルノ目的ヲ以テ登記ノ制ヲ定メ又登記簿ニ登錄スルノミニテハ不十分ナリトシテ更ニ裁判所ヲ以テ之ヲ公告セシムル以上ハ寧ロ公告ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗シ得ル時期ヲ定ムルヲ釋當ナリト謂ハサルヘカラス又登記及ヒ公告ノ後ト雖モ正當ノ事由ニヨリ即過失ナクシテ之ヲ知ラザリシ第三者ニ對シテハ此法律關係ヲ以テ對抗スル

コトヲ得スト云フハ亦已ムヲ得サル規定ナルヘシ(新商法第十二條)

第二 登記ト事實トノ關係 (一)登記事項ハ法律ノ規定スル所ナリ此事項ハ必ス之ヲ登記セサルヘカラス而シテ之ヲ登記スルトキハ公ニ認知セラレタルモノト推定セラル今若シ登記事項ニ非サル事項ヲ登記シタルトキハ如何ノ効力アルヤ登記ハ法律ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ヲ登記簿ニ登錄スルニ由リテ其事項ノ爲ニ一定ノ効力ヲ生スルノミ法律ノ登記ヲ命セサル事項ハ本來登記ヲ爲スコトヲ得サル事項ナリ假リニ登記官吏誤リテ之ヲ登記スルモ是法律ノ所謂登記ニ非ス從テ些ノ効力ヲ生スルコトナシ

(二)登記事項ヲ登記セル場合ニ於テモ(一)或ハ特ニ私法關係ヲ起サ、ルコトアリ例之ハ支配人ノ選任ノ如キハ登記ニ因リテ支配人ノ代理權ニ消長アルニ非ス之ヲ登記セサルモ本人ハ第三者ニ對シテ甲ハ我支配人ナリト稱シテ取引セシムルニ於テ妨ケナシ第三者モ亦其登記ナキカ爲メニ支配人トシテ取引セシムコトヲ拒ムコト勿カルヘシ假令之ヲ登記スルモ第三者ヲ強非テ之ト取引セシムルコト能ハス又第三者カ支配人タルコトヲ知ラスシテ甲ト取引シタリトセハ

本人ハ其登記ヲ以テ第三者ニ對抗シテ之ヲシテ直接ニ自己ニ對シテ契約ヲ履行セシムルコト能ハス何トナレハ第三者ノ意思ハ本人ト取引スルニ在ラズシテ甲ト取引セント欲セルモノナレハナリ若シ支配人カ本人ノ爲ニスル意思ナリトスレハ此取引ハ意思ノ合致ヲ欠クニ因リ本來不成立ナルヘキモノナリト雖モ支配人カ本人ノ爲メニスルコトヲ示サハリシトスレハ民法第百條ノ規定ニ依リ支配人カ自己ノ爲ニ爲シタル意思表示ト看做サルヘク若又支配人カ眞實自己ノ爲ニスル意思ヲ以テ取引セルモノトスレハ此取引ハ無論第三者ト甲トノ間ノ取引ナリト雖モ商法第三十二條ノ規定ニ依リ主人ハ甲ニ對シテ其取引ヨリ生スル自己ニ移サシムルコトヲ得ヘシ之ヲ要スルニ此種ノ登記事項ハ登記ノ爲ニ特更ニ法律關係ヲ生スルコトナシ法律ハ唯タ本人及ヒ第三者ノ便益ノ爲メ其事項ノ公示ヲ希望スルノミ

(丙)最モ多クノ場合ニ在リテハ登記ハ登記事項ニ第三者ニ對抗スル力ヲ與フルナリ法律關係ノ成立ハ登記以前ニ在リト雖モ之ヲ登記スルニ非サレハ善意ノ第三者ニ對シテ其効力ヲ主張スルコトヲ得ス前段ニ述ヘタル支配人ノ登記ヲ

變更シ又ハ抹消スル登記ハ却テ此種ニ屬スルナリ何トナレハ此登記ノ變更ハ一面ニ於テハ舊支配人ノ解任ヲ意味スルヲ以テ抹消登記ト等シク本人ハ之ニヨリテ代理ノ消滅ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルナリ故ニ爾後舊支配人ヲ支配人ト信シテ取引セル第三者ニ對シテハ第三者ニ正當ノ事由アルニ非サレハ其契約ノ責ニ任スルコトナシ

(ハ)或場合ニハ登記ニ由リテ始メテ法律關係ヲ生スルコトアリ或ハ法律關係ヲ消滅セシムル現行商法第二十二條末段ニ於テハ但權利關係カ登記ニ因リ始メテ生スヘキ例外ノ場合ハ其場所ニ於テ之ヲ定ムト規定シ第二百十條ハ株式會社定款ノ變更ハ登記ヲ經ルニ非サレハ効力ヲ生セサルコトヲ規定セリ

(ニ)錯誤ノ登記ハ効力ヲ生セサルヲ原則トス登記ハ公示方法ナルヲ以テ或ル法定關係ノ存在アルヲ要件トス登記ニ由リテ存在セサル法律關係ヲ存在セシムルコト能ハサルト同時ニ又存在スル法律關係ヲ消滅セシムルコト能ハス故ニ錯誤ノ登記ハ其錯誤ノ部分ニ付テハ法律ニ別段ノ定ナキトキハ何等ノ効力ヲモ生スルコトナシ獨逸ノ不動産登記法ニ於テハ登記簿ノ登錄ハ絕對ニ法律關

係ヲ定ムル主義ナルヲ以テ錯誤ノ登記モ之ヲ訂正セサル限りハ効力アリ然レトモ商業登記ニ關シテハ亦公示主義ヲ採用セリ

誤謬ニ因ル登記ハ効力ヲ生スルコト無シト雖モ錯誤ノ登記ニ因リテ第三者ニ損害ヲ與フルコトナキニ非ス此場合ニ於テハ錯誤ヲ爲シタル者ハ損害賠償ノ責ニ任セサルヘカラス但登記官吏ノ錯誤ニ付テハ法令ノ規定アルニ非サレハ損害賠償ヲ請求スルノ途ナシ獨逸不動産登記法ニ於テハ登記官吏ノ過失ニ付テハ國家カ其責ニ任スルコトヲ規定セリ

(三)登記ト公告トノ關係 登記シタル事項ハ裁判所ニ於テ遲滞ナク之ヲ公告セサルヘカラス而シテ登記事項ハ之ヲ公告スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス此ニ於テ若シ登記ト公告ト矛盾セル場合ニハ如何ノ關係ヲ生スヘキヤ(一)登記ニ錯誤アリテ公告カ却テ真正ナル場合ニ於テハ登記ハ効力ナキヲ以テ公告ヲ以テ第三者ニ對抗スルコト能ハサルハ無論ナリ但シ第三者ニシテ公告ヲ眞實ナリト信シテ取引セルトキハ其善意ニ非サルカ爲ニ事實ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ルノミ(二)公告ニ錯誤アル場合ニ於テハ之ニ反シテ

ノ利用ヲ多カラシムルコトヲ得ヘシ

第三 大企業ハ資本ニ豊カニ又信用ニ富ムヲ以テ原料ヲ購求シ貨財ヲ賣捌ク上ニ頗ル有利ノ地位ニ立ツコト不俟言

凡テ是等ノ利益タルヤ相集マリテ大企業ノ產出スル貨財ヲシテ小企業ヨリモ一層低廉ニ多量ニ又善良ナラシム

其結果ハ如何他ナシ大企業カ小企業ヲ壓倒スルコト是ナリ殊ニ工業ノ範圍内ニ於テ尤モ甚シトナス是ニ於テカカノ獨乙社會民主黨ハ叫フラク小企業ハ到底大企業ト競争スル能ハス小企業ハ結局大企業ノタメニ覆滅セラレ、モノナリト然レトモコレ悲觀的ニ過タルノ論ニシテ正鵠ヲ得タリト稱スヘカラス何トナレハ大企業ハ絶對的ニ小企業ニ優ラス小企業ニモ亦大企業ト並ヒ立テ存立シ得ルノ大範圍アレハナリ

先ツ生産業自身ノ性質ニ於テ大企業トナスニ不利ナルモノフリ例ヘハ概シテ製造業ハ資本豊カニシテ販路亦廣クレハ充分ニ大仕掛トナスコトヲ得ト雖モ反之農業ハ其性質上分業ノ適用制限セブレ又機械ヲ充分ニ利用スルコト能ハ

サルカ故ニ到底一般ニ工業ノ如ク大仕掛トナシテ利益ヲ收ムルコト能ハサルカ如キ是ナリ

第二、主トシテ一地方ノ需要又ハ各人各異ノ需要ニ應スル貸財ヲ作り出ス事業ハ充分大仕掛トナスヲ得ス例ヘハ飲食物製造業、造靴業、裁縫業ノ如キコレナリ

第三、修復ニ關スル事業ハ概シテ大資本ヲ要セス、重ニ人力ヲ以テ爲スコトナレ

ハ小企業ニテ足レリ例ヘハ時計銃器靴ノ修復業ノ如キ是レナリ

第四、特別ノ趣味美術品又ハ特別ノ技能ヲ要スル貸財ヲ産出スル事業モ亦小企業ノ範圍ニ屬スヘキモノナリ

加フルニ又小企業者ハ前節ニ述タル信用組合其他ノ組合ヲ結ヒ其力ニヨリテ大企業者カ貸財ノ生産及販賣ニ付テ有スル利益ヲ或點マテ自ら取得スルヲ得ヘシ又發動機、就中瓦斯發動機及石油發動機ヲ使用スルコトモ小企業者殊ニ小工業者ノ自衛ノ一方法タルヲ失ハス要之、大仕掛ヲ以テスルニアラサレハ營ム能ハサル企業例ヘハ機關車、汽船、大砲、蒸氣機關ノ製造業ノ如キハ此適例ナリ、若クハ大仕掛ヲ以テスルコト遙カニ有利ナル企業ニ在テ大企業ノ行ハルハ、官

ニ不得已ルノミナラス寧ロ經濟上ノ進歩トシテ之ヲ歡迎セサルヘカラス此ノ際時ニ大企業カ小企業ト衝突ヲ來シ、遂ニ之ヲ壓倒スルニ至ルハ、假令獨立シ小企業者ヲ變シテ勞働者ニ陥ラシムルカ如キ弊害アルニモセヨコレ實ニ生産業ノ正當ナル安排上如何トモスヘカラサルコトナリ是等ノ範圍ヲ除キ其以外ニ於テハ小企業ニモ前述セル如ク優ニ成立シ得ル廣大ナル範圍アリトセハカノ社會民主黨ノ言ハ之ヲ悲觀的ニ過タルモノト言ハサルヲ得ンヤ

第一篇 交易論

第一章 交易ノ組織

第一節 總論

人モシ其生活ヲ維持シ其幸福ヲ増進スル上ニ於テ要スル貸財ヲ盡ク自ら生産スルトキニ於テハ貸財ノ交易ハ毫モ其必要ヲ見サルナリ然リト雖モ既ニ社會ニ分業ナルモノ行ハレ各人種々ノ業ニ分レテ生産ヲ營ムニ當テヤ生産者必スシモ消費者ニアラス消費者必スシモ生産者ニアラス加フルニ方今ニ於テハ私

有財産制行ハル、カ故ニ人ハ他人ノ生産スル所ヲ無償ニテ利用スルヲ得ス是ニ於テ乎各人ハ是非トモ交易ニヨリテ有無相通シ長短相補ハサル可ラス
 交易ハ自己ニ用ナキモノヲ以テ用アルモノト換ヘ又ハ用少ナキモノヲ以テ用多キモノト換ヘシムルノ方法ナリサレハ交易ニヨリテ双方ノ當事者ハ共ニ利益ヲ享ルモノナリト謂ハサル可ラス

抑モ貨財ノ交易ヲ滑カニシ其發達ヲ計ルニハ種々ノ制度組織ヲ必要トス即チ
 第一 貨財ノ分量ヲ算定スルノ手段タル度量衡ノ制度
 第二 貨財ト貨財トヲ直接ニ交換スルニ伴フ不便ヲ除去スルノ方法タル貨幣及信用ノ制度

第三 人貨財及通信ヲ傳送シテ生産者及消費者相隔タルヨリ生スル不便ヲ排除スルノ手段タル運搬通信ノ制度

第四 商業 近接セル人々間ニ於テモ互ニ其需要スル所又其生産スル所ヲ知リ直接ニ交易ヲ行フコト難シ况ヤ生産者消費者互ニ遠ク地ヲ隔ラル場合ニ於テオヤ此ノ不便ヲ除キ生産者ト消費者間ノ媒介トナリ生産者ヨリ貨財ヲ買

入レ之ヲ消費者ニ賣渡スモノコレ即チ商業ナリ

是等ノ制度組織ニシテ整備センカ交易ハ頗ル容易トナリ頻繁トナリ從テ生産ハ進ミ消費ハ増進シ一般經濟上ニ重大ノ影響ヲ及ボスヘシ今以下節ヲ追フテ是等ノ制度組織ニ付テ畧説セン

第二節 度量衡

度量衡ハ貨財ノ分量長短大小輕重ヲ定ムルノ用ヲナスモノニシテ(一)一樣ニシテ精確ニ(ロ)又或單位ヲ基トシ之ヲ分割倍乘シテ各之レニ相當ノ名稱ヲ付シ(例ヘハ尺ヲ基トシ之ヲ分チ寸分トナシ之ヲ倍シテ丈トナスカ如シ)以テ貨財ノ長短大小輕重ニ應ジテ相當ノ標準ヲ與フルヲ要ス殊ニ度量衡ノ三者共ニ其基ヲ唯一ノ單位ニ取り其間ニ一定ノ關係ヲ保タシムルトキハ尤モ便ナリトス(佛ノ「メートル」法ハ是ナリ)度量衡制度ニシテ整ハンカ爲ニ交易ノ安全ヲ計リ延テ其發達ヲ促カスヤ不俟言サレハ文明諸國ニ於テハ法律ヲ以テ精細ニ此制度ヲ規定ス我邦ニ於テモ明治二十三年三月發布ノ度量衡法ヲ以テ之ヲ定メタリ就テ見ルヘシ

第三節 貨幣及信用

抑モ社會幼稚ニシテ交易未タ盛ンナラサルヤ直接ニ物ト物トヲ交換スル所謂
 實物交換行ハル然ルニ實物交換ハ一交換者ノ欲望精密ニ相一致セス(ロ)又或貨
 財例ヘハ馬ノ如シハ不可分ナル等ノ事情アリテ不便甚タシ於是乎社會少シク
 進歩スルヤ自ラ一般ニ好ム所ノ貨幣ヲ取り之ヲ交易ノ媒介トシ直ニ物ト物ト
 ヲ交換セスシテ之ヲ媒介トシテ間接ニ交換ヲ實行スルニ至ル此貨幣ハ則チ貨
 幣ナリ既ニ貨幣起リ廣ク用非ラル、ニ及ンテハ貨幣ノ交易ハ爲ニ著シク發達
 フ來スヤ説明ヲ要セスシテ明ナリ
 然ルニ更ニ一步ヲ進メテ交易カ貨幣ノ媒介ヲ要セス即チ貨幣ヲ受取ルト同時
 ニ貨幣ヲ拂ヒ渡スニ及ハス信用ニ因リテ一方ノ人ハ直ニ貨幣ヲ與ヘ然モ他ノ
 一方ノ人ハ他日之ニ對スル貨幣ヲ供スルヲ約スルニ止マルニ至ル是ニ於テ交
 易ハ益々圓滑ニ行ハル、ナリ
 貨幣及信用ニ關シテハ述フヘキコト頗ル多シ故ニ別ニ章ヲ設ケテ後ニ之ヲ
 説ク

第四節 運搬及通信

運搬通信ノ機關ハ人貨物及ヒ通信ヲ一ノ場所ヨリ他ノ場所ニ傳送スルモノニ
 シテ其働トスル所ハ距離ニ打勝チ生産者ト消費者トヲ接近セシムルト云フノ
 點ニアリ
 凡ソ運搬通信ノ機關カ充分ニ其効用ヲ全フスルニ付テ具備スヘキ條件五アリ
 (一)迅速ナルコト(二)運搬通信ノ多キコト(三)規則正シキコト(四)安易ナルコト(五)廉
 價ナルコト即チ之レナリ運搬通信機關ノ改良完全ヲ計ルニハ是等ノ五點ニ注
 意スルヲ要ス
 抑モ運搬通信ノ機關發達スルトキハ之カ爲ニ貨財ノ循環ノ活潑トナリ貨財ノ
 販路ハ擴張セラレ之ト共ニ自由競争ハ盛トナリ生産業ノ分配ハ發達シ更ニ貨
 財ノ生産ハ進歩シ其消費ハ増進シ又各地方ニ於ル物價ノ相違物價ノ變動ハ減
 少セラル其經濟的進歩ニ大關係アル以テ見ルヘシ

第五節 商業

商業ハ貨財ノ交易ヲ媒介スルヲ以テ目的トスル事業ナリ商業ニ從事スルノ人

即チ商人ハナルヘク安ク貨財ヲ買入レ之ヲナルヘク高ク賣却シテ利益ヲ得ン
ト務ムルモノナリ

商業ハ種々ノ標準ニ因リテ分類スルコトヲ得今其重ナルモノヲ舉ン

第一 商業ノ目的物ニ因リテ區別スレハ商業ニ物品商業不動産商業及ヒ有價
證券商業アリ物品商業トハ動産物ノ賣買ヲ事トスルモノニシテ商業中ノ最
要部分ヲ占メ通常商業ト謂フモノハ即チ之ナリ不動産商業トハ土地家屋ヲ
買入レ更ニ之ヲ賣ルモノヲ云ヒ經濟上ノ功用左マテ大ナラス有價證券商業
トハ株券、手形、公債證書等ニ關スル商業ニシテ是等證券ノ價直ヲ定メ以テ資
本ノ放下ニ便ス

第二 一國ニ於ケル商業カ外國人ノ手ニ因リテ營マル、トキハ之ヲ受働的商
業ト云ヒ反之自國人カ其商權ヲ掌握スルトキハ之ヲ自動的商業ト云フ

第三 商業ノ營マル、區域ニ因リテ分ツトキハ商業ニ内國貿易外國貿易自國
ト他國トノ間ニナサル、モノ及仲立貿易外國ヨリ買フテ再ヒ外國ニ賣ル買
易ノ別アリ更ニ外國貿易ニ輸入貿易ト輸出貿易ノ別アリ近世ニ至ルマテ一

校外生規則草案

三 職員ノ部門ヲ二分シ、五ノ科目ヲ設ケル

第一節 民法民事訴訟法商法刑法刑訴訟法行政法

第二節 商法民法訴訟法刑法刑訴訟法

第三節 刑法民事訴訟法商法行政法

二 各節共毎月二回講行都各科目ニテ、

第一節ハ、五月日第二節ハ、十月日第三節ハ、三月日

三 入學金三十圓月費第一節三十五圓第二節三十五圓

四 全部ヲ修了シテ、校外生ニ其資格ヲ付スル

ハ、試験ノ上校外生ニ其資格ヲ付スル

五 校外生ハ、講義中ノ資格ヲ付スル

即チ商人ハナルヘク安ク貨財ヲ買入レ之ヲナルヘク高ク賣却シテ利益ヲ得ン
ト務ムルモノナリ

商業ハ種々ノ標準ニ因リテ分類スルコトヲ得令其重ナルモノヲ舉ン

第一 商業ノ目的物ニ因リテ區別スレハ商業ニ物品商業不動産商業及ヒ有價
證券商業アリ物品商業トハ動産物ノ賣買ヲ事トスルモノニシテ商業中ノ最
要部分ヲ占メ通常商業ト謂フモノハ即チ之ナリ不動産商業トハ土地家屋ヲ
買入レ更ニ之ヲ賣ルモノノ云ヒ經濟上ノ功用左マテ大ナラス有價證券商業
トハ採安手形公債證書等ニ關スル商業ニシテ是等證券ノ價値ヲ定メ以テ資
本ノ放下ニ便ス

第二 一國ニ於ケル商業カ外國人ノ手ニ因リテ營マル、トキハ之ヲ受働的商
業ト云ヒ反之自國人カ其商權ヲ掌握スルトキハ之ヲ自働的商業ト云フ

第三 商業ノ營マル、區域ニ因リテ分ツトキハ商業ニ内國貿易外國貿易自國
ト他國トノ間ニナサル、モノ及仲立貿易外國ヨリ買フテ再ヒ外國ニ賣ル質
易ノ別アリ更ニ外國貿易ニ輸入貿易ト輸出貿易ノ別アリ近世ニ至ルマテ一

校外生規則摘要

一 講義録ノ部門ヲ三分シ左ノ科目ヲ掲載ス

第一部 民法民事訴訟法國際私法裁判所構成法法理學羅馬法

第二部 商法破産法經濟學財政學

第三部 刑法刑事訴訟法憲法行政法國際公法

二 各部共毎月二回發行都合六回シ一ケ年ヲ以テ完結ス

第一部ハ五、廿日第二部ハ十、廿五日第三部ハ十五、三十日ヲ定刊日トス

三 入學金三十錢月謝金一部三十五錢宛全部一圓トス

四 全部ヲ修了シタル者ニハ校外生修業證書ヲ授與ス此證書ヲ有スル者

ハ試験ノ上校内生第三年級ニ編入セラル、コトヲ得

五 校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得

○ 注意

- 入學金又ハ月謝金ヲ郵便爲替ニテ送付スル者ハ必ス飯田町支局宛ニテ振出スヘシ
- 月謝金ノ切レタルトキハ講義録發送ノ封皮ニ月謝切ノ印ヲ押シ以後講義録ノ發送ヲ停止スヘキニ因リ早速送金スヘシ
- 講義録中落丁アリテ補充ヲ求ムル者ハ必ス其講義録ヲ返戻スヘシ
- 用向ノ書信ハ成ルヘク簡明ナルコトヲ要ス

明治三十二年五月廿四日印刷
明治三十二年五月廿五日發行

東京市牛込區矢來町三番地
編輯兼 上野政雄
發行所
東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地
印刷者 金子鐵五郎
東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地
印刷所 金子活版所

發行所 司法省 和佛法律學校

所在 (東京市麴町區富士見) 町六丁目十六番地
電話 (本局千二百七十四番)

明治廿一年十二月九日內務省許可